

琉球大学学術リポジトリ

令和2年度前学期共通教育等科目における「学生による授業評価」の分析結果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2021-05-26 キーワード (Ja): 学生による授業評価, 遠隔授業, コロナ禍, Web調査 キーワード (En): 作成者: 西本, 裕輝 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48496

令和2年度前学期共通教育等科目における「学生による授業評価」の分析結果

西本裕輝(グローバル教育支援機構)

要旨

2020年度前期、コロナ禍という特殊な状況によって突然始まった本学における遠隔授業は、学生・教員双方とも不慣れなこともあって、多くの混乱をもたらした。そこでグローバル教育支援機構大学教育支援部門においては、2020年度後期以降の教育改善のためのエビデンスを得るため、「学生による授業評価」において遠隔授業に関する質問項目を多数設け、Web調査を実施し、その分析を行った。遠隔授業についてのネガティブな評価により授業満足度の低下等が危惧されたが、データで見るとポジティブな評価も多いことがわかった。2020年後期以降に向け、問題点を改善し、良い点はより充実させていくためのエビデンスを得ることができた。

キーワード

学生による授業評価、遠隔授業、コロナ禍、Web調査

はじめに

2020年度前期、コロナ禍という特殊な状況によって突然始まった本学における遠隔授業は、学生・教員双方とも不慣れなこともあって、多くの混乱をもたらした。そこで大学教育センターにおいては、2020年度後期以降の教育改善のためのエビデンスを得るため、「学生による授業評価」の大幅な改定を行い、遠隔授業に関する質問項目を多数設けた。

またコロナ禍のため、従来紙ベースで行っていた授業評価を、今回初めてWeb調査にて実施した。これまで回収率の低下が危惧されたため、なかなかWebへの移行に踏み出せなかったが、この特殊な状況を逆に利用した形となった。

ここでは得られたデータを分析することにより、2020年後期以降に向け、問題点を改善し、良い点はより充実させていくためのエビデンスを得ることができると考える。

1. 調査の概要

まず、調査の概要であるが、表1、2に示すとおりである。

心配していた回収率であるが、70.66%となっており、例年に比べると若干低下しているものの、一定数のサンプルは確保することができており、結果の信頼性にはほとんど影響しないと考えることができる。

表1：調査概要

調査の目的	共通教育等科目における授業内容・方法等の改善
調査対象	令和2年度前学期の共通教育等科目受講者
調査実施期間	7月20日(月)～8月31日(月)
調査方法	琉球大学教務情報システムを利用したWeb調査

表 2 : 回答率等

回答者数 (のべ数)	11,777人
受講者数 (のべ数)	16,667人
回答率	70.66%

2. 全体に関する質問

まずは全体に関する質問についての集計結果である。結果は各項目の単純集計結果と併せ、科目区分ごとの集計結果も示している。

なお、科目区分ごとの集計にはクロス集計を用い、カイ2乗検定を行っているが、結果はすべて1%水準で有意であった。

A. 所属学部

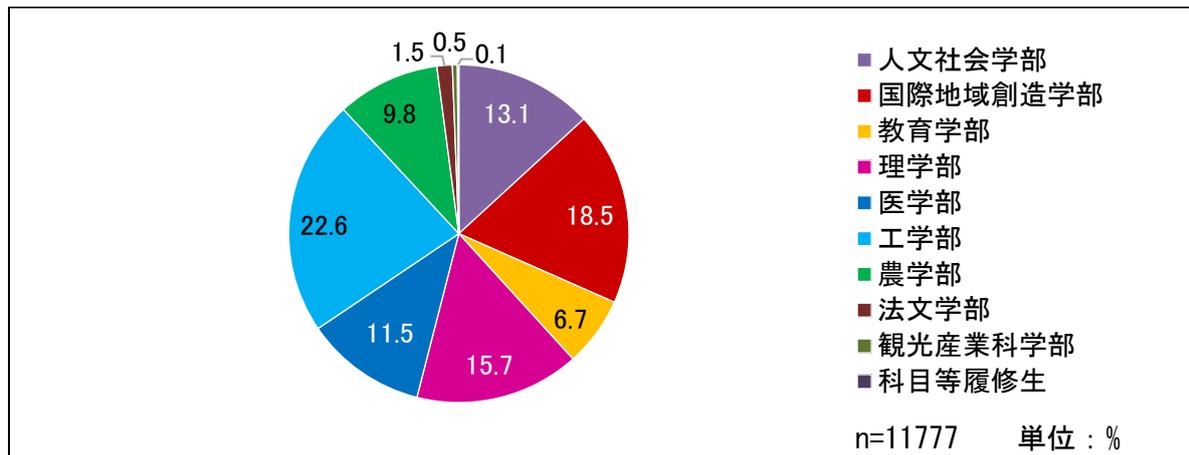


図 1 : 設問 1 の回答内訳

所属学部については上のようになっているが、わずかながら旧学部である法文学部、観光産業科学部の学生もいることがわかる。

B. 学びの姿勢

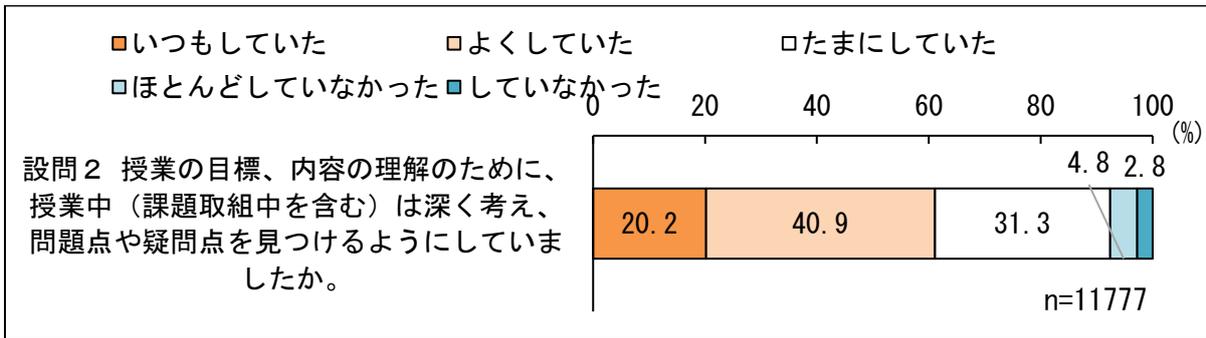


図2：設問2の回答内訳

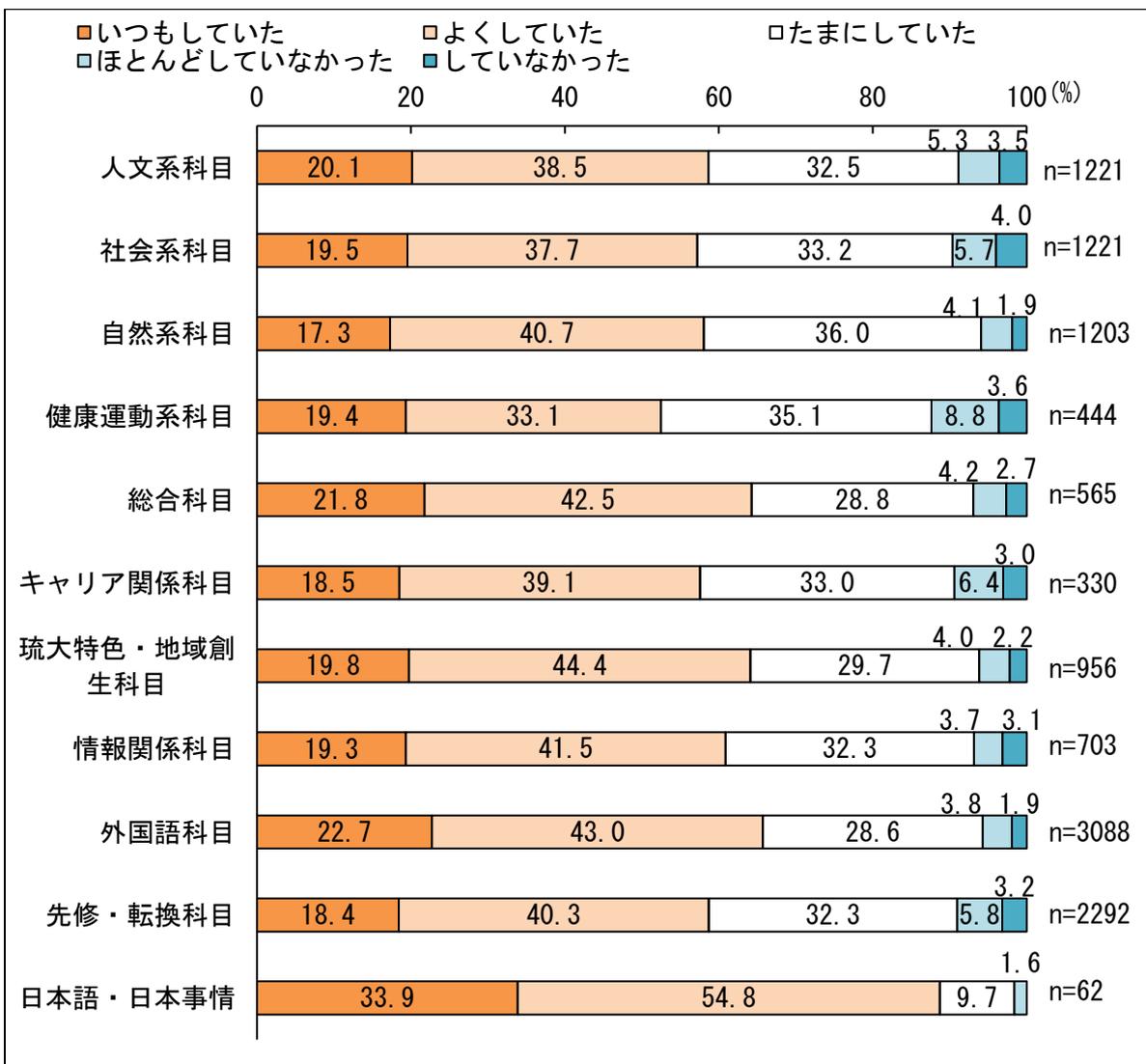


図3：設問2「授業の目標、内容の理解のために、授業中（課題取組中を含む）は深く考え、問題点や疑問点を見つけるようにしていましたか。」各授業科目区分の回答内訳

授業への取り組み方については、日本語・日本事情科目が突出して肯定的回答の占める割合が高いことがわかる。

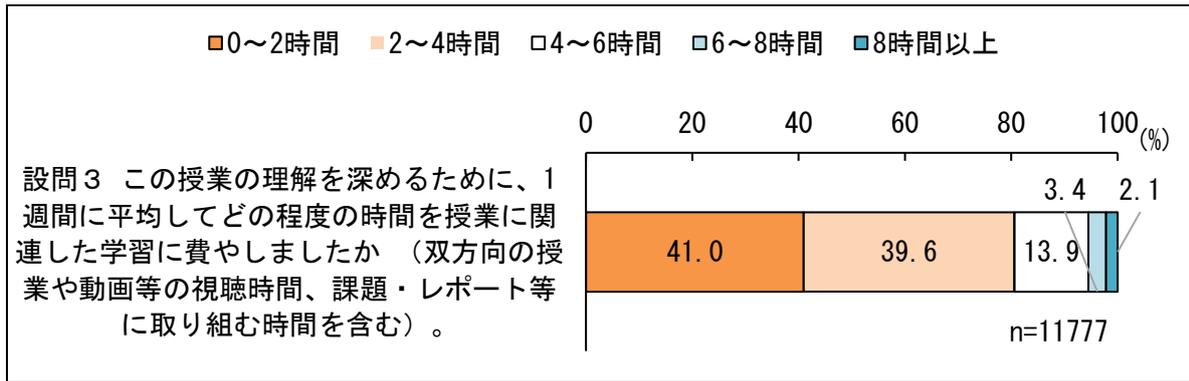


図4：設問3の回答内訳

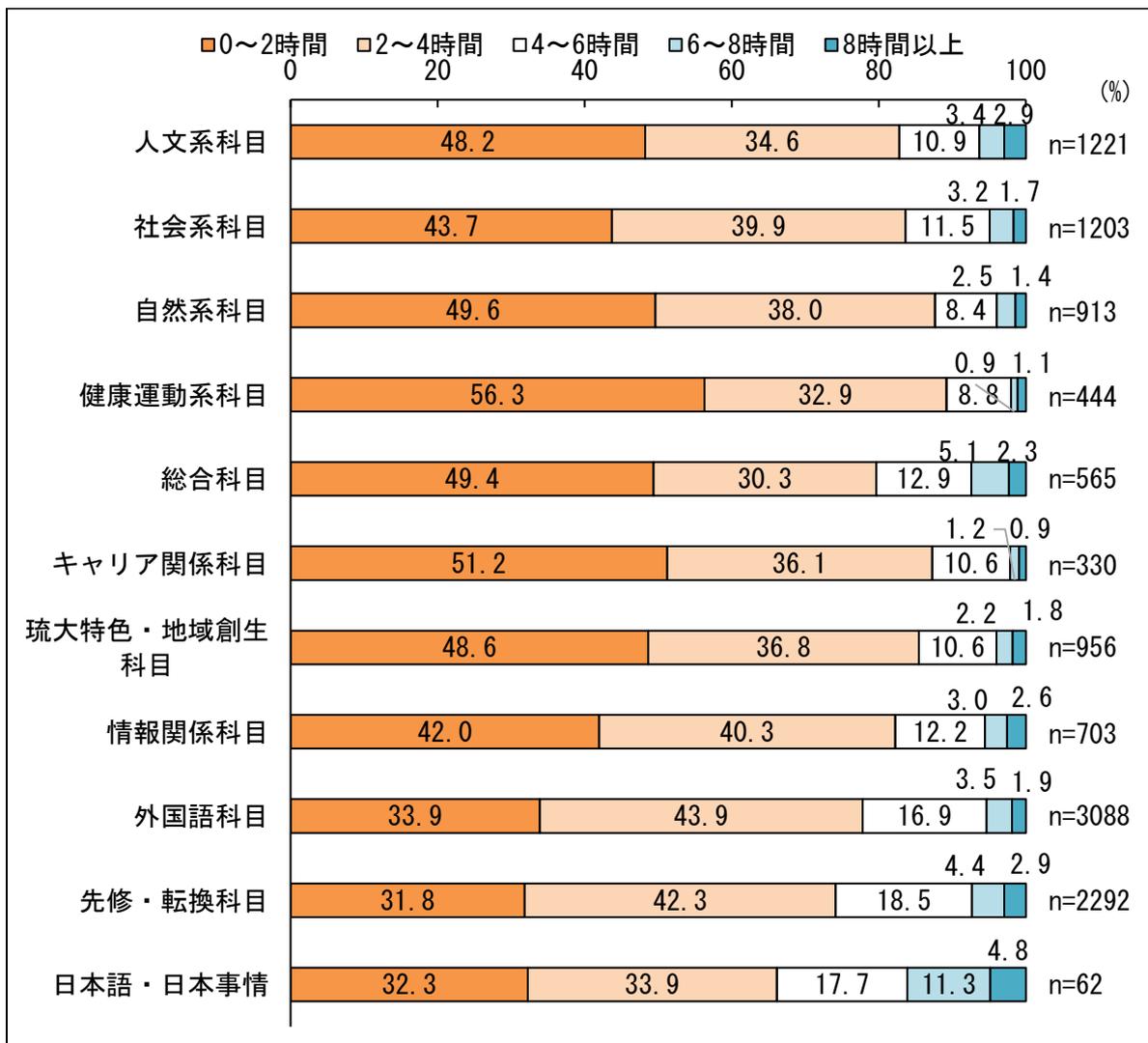


図5：設問3「この授業の理解を深めるために、1週間に平均してどの程度の時間を授業に関連した学習に費やしましたか（双方向の授業や動画等の視聴時間、課題・レポート等に取り組む時間を含む）」各授業科目区分の回答内訳

学習時間についてであるが、1週間の時間としては短いと言わざるを得ない。4時間以下が実に80%を占めている。しかしその中でも、日本語・日本事情、先修・転換科目については、若干長めとなっている。この点については後の考察でも述べる。

C. 授業の内容（シラバス、構成、教員の熱意等）

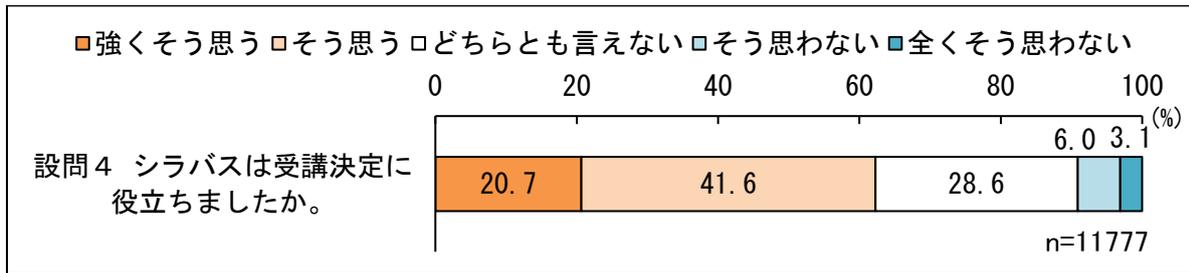


図6：設問4の回答内訳

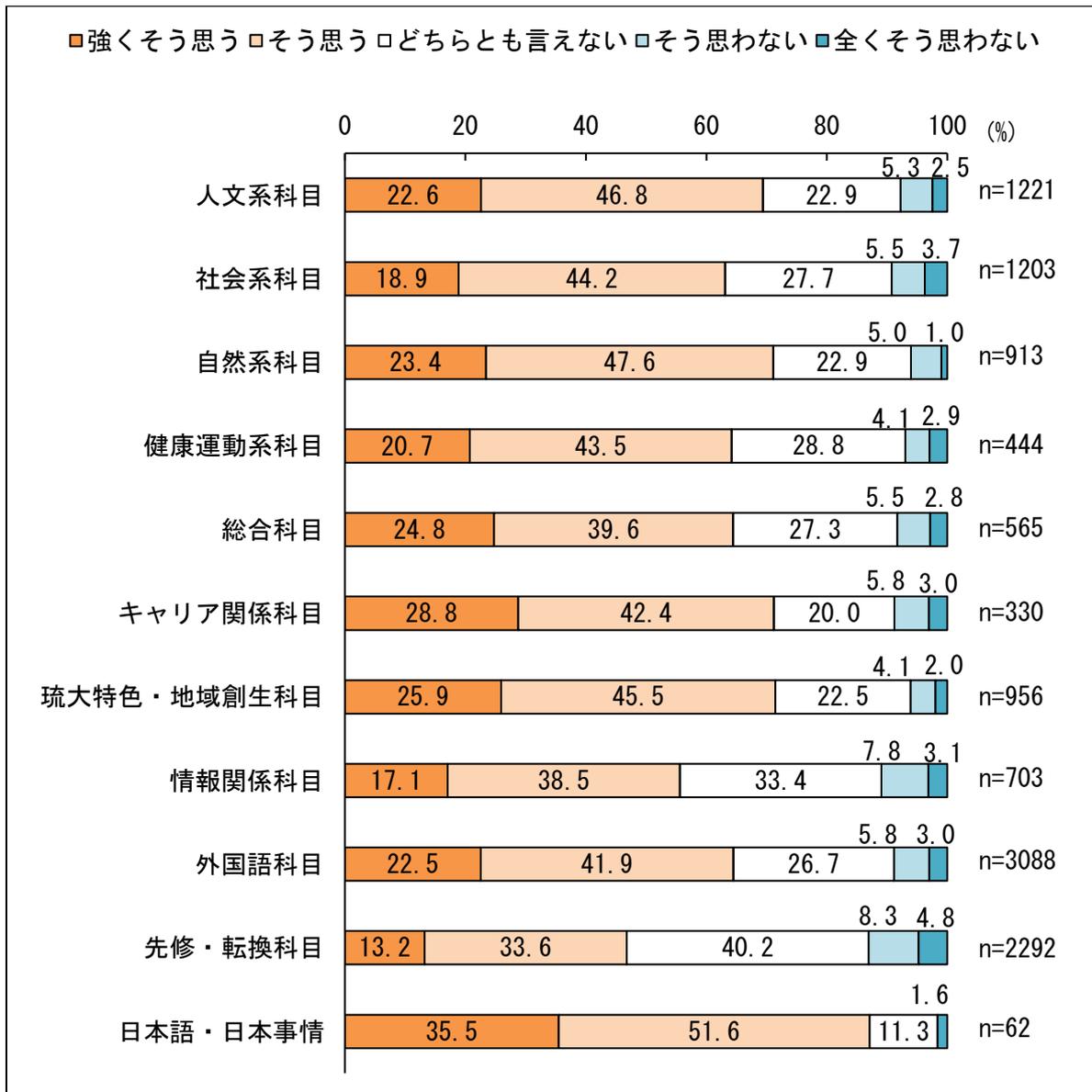


図7：設問4「シラバスは受講決定に役立ちましたか。」各授業科目区分の回答内訳

シラバスが役立ったかどうかについては、日本語・日本事情が突出して肯定的回答が高いことがわかる。

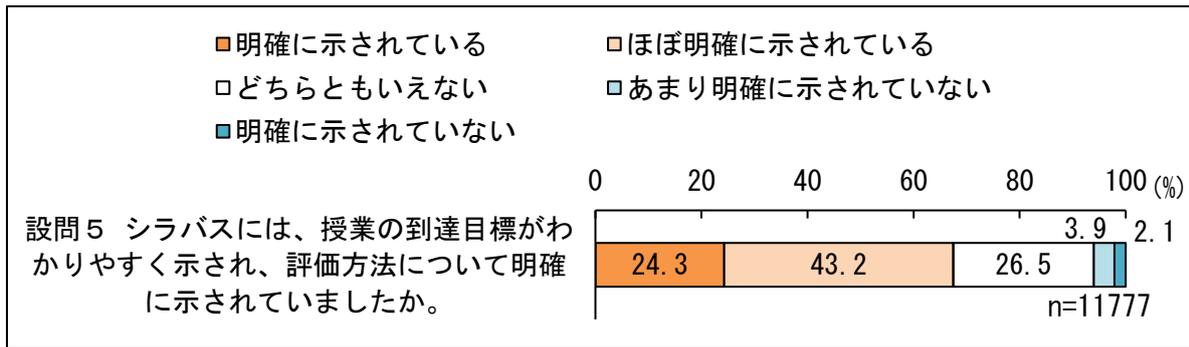


図 8 : 設問 5 の回答内訳

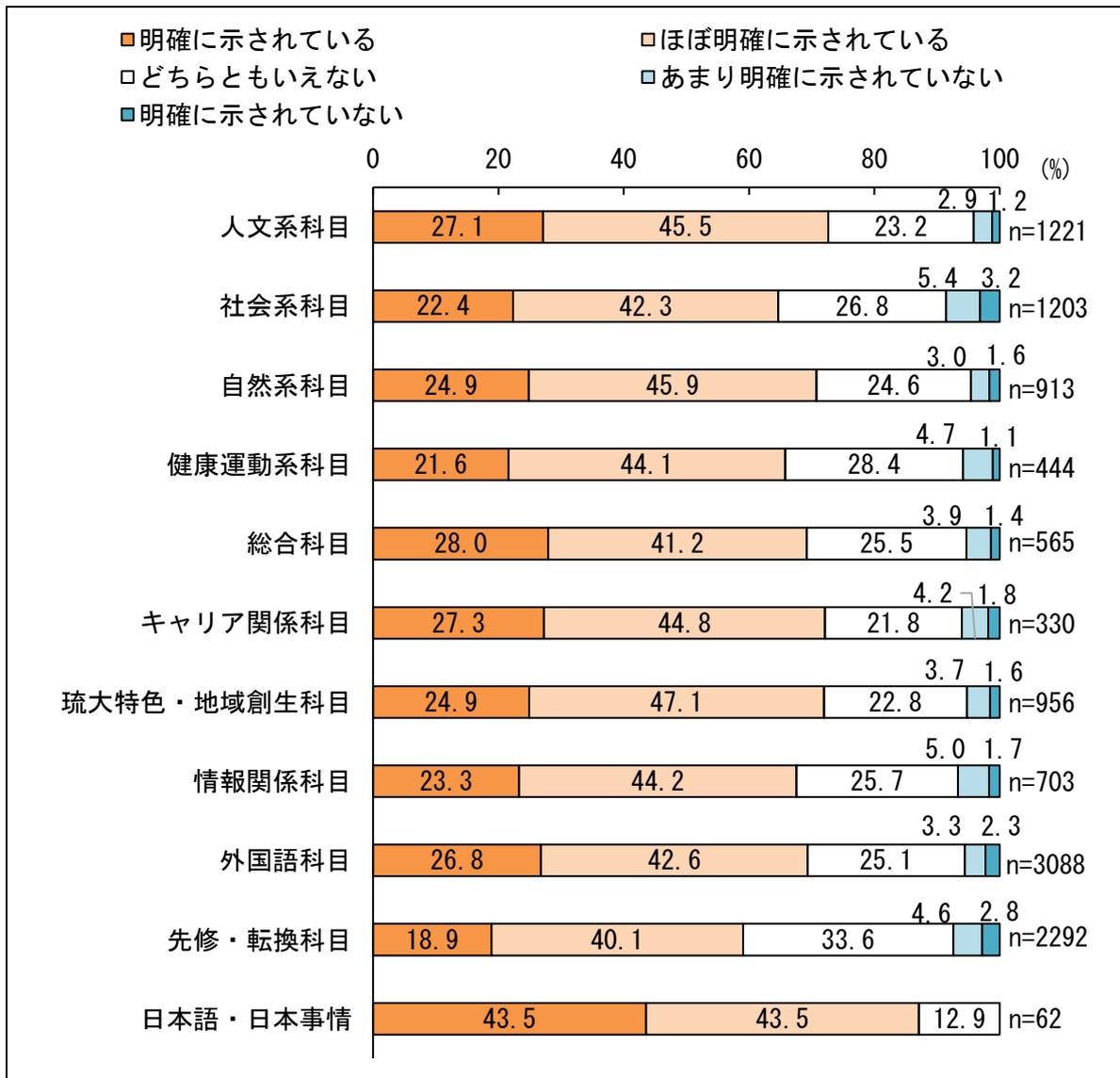


図 9 : 設問 5 「シラバスには、授業の到達目標がわかりやすく示され、評価方法について明確に示されていましたか。」各授業科目区分の回答内訳

シラバスについての評価も、日本語・日本事情が突出して高いことがわかる。

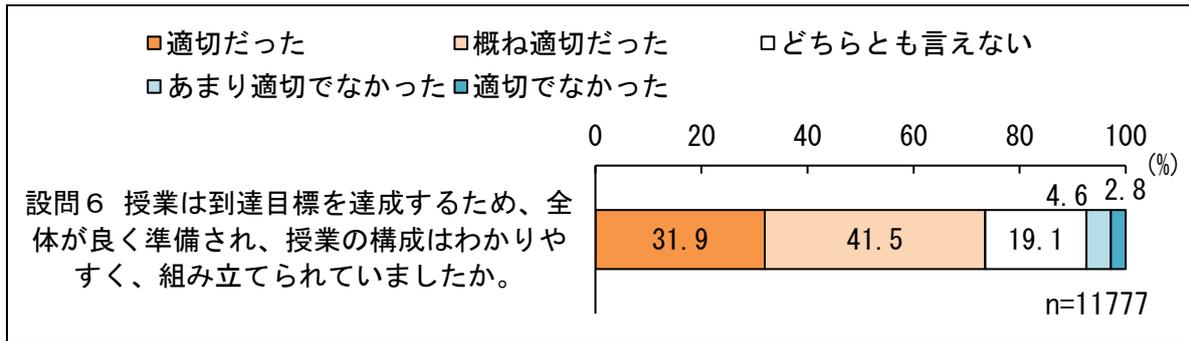


図10：設問6の回答内訳

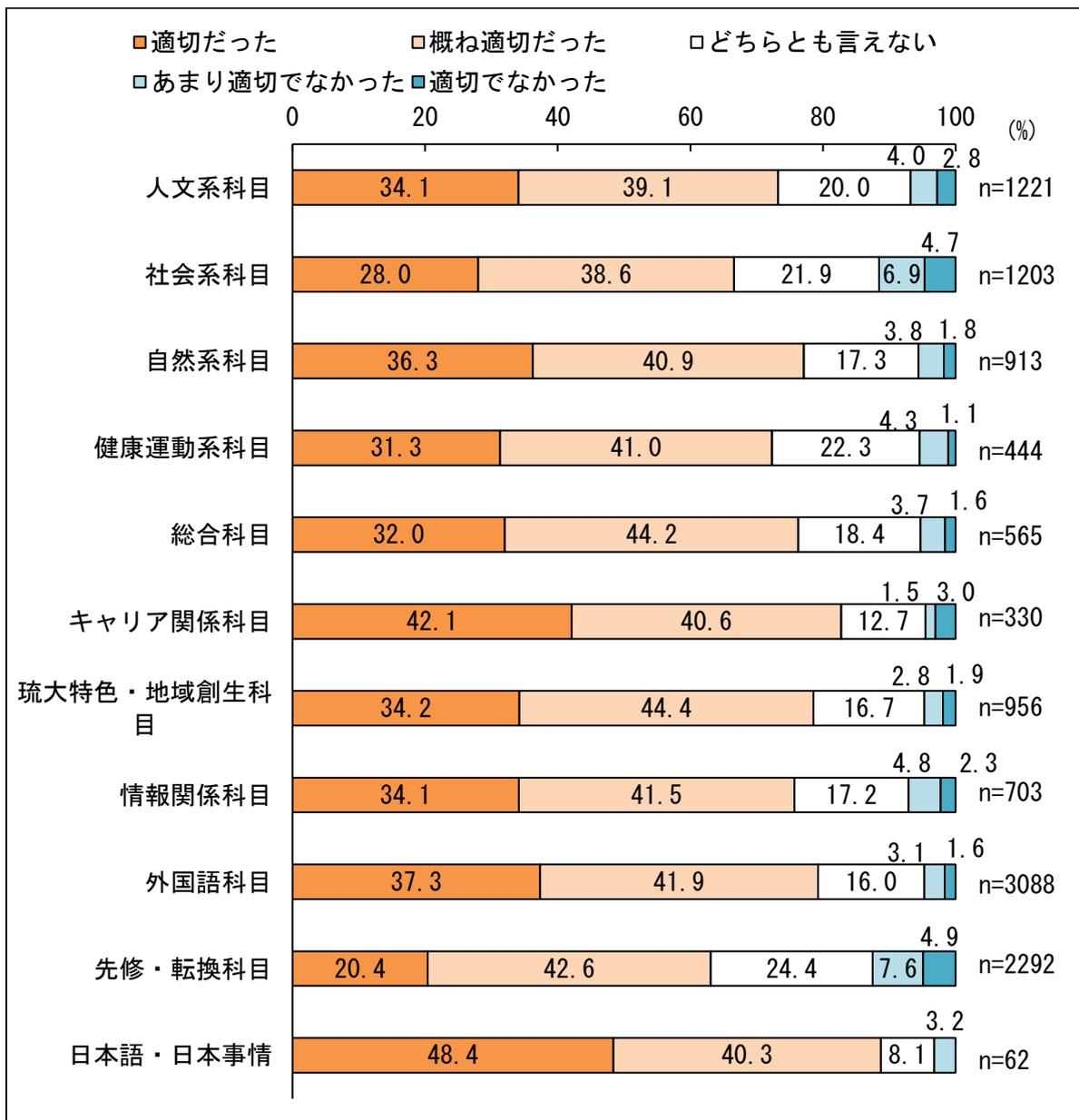


図11：設問6「授業は到達目標を達成するため、全体が良く準備され、授業の構成はわかりやすく、組み立てられていましたか。」各授業科目区分の回答内訳

授業の構成についても、日本語・日本事情が突出して肯定的回答が高い。

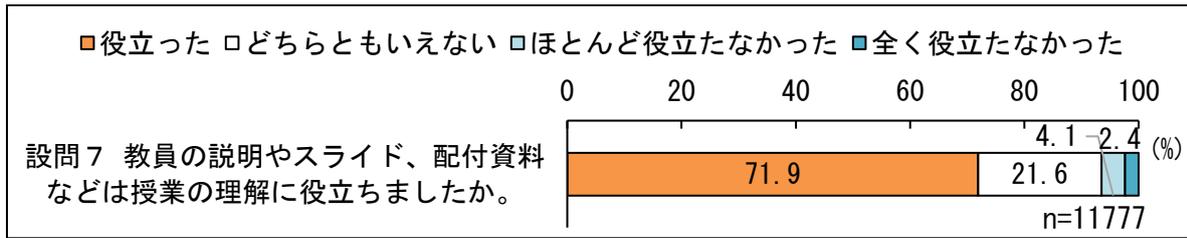


図12：設問7の回答内訳

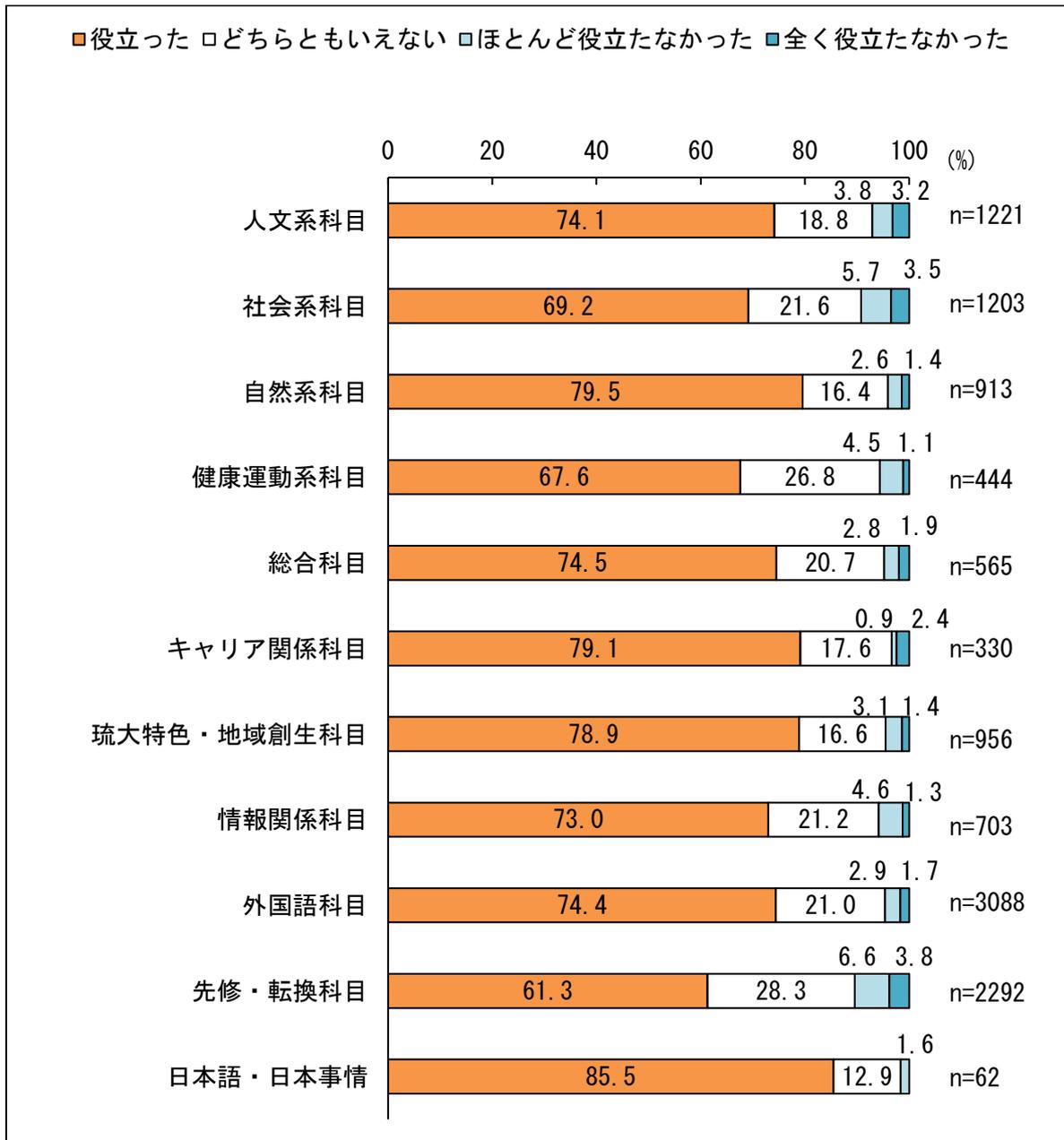


図13：設問7「教員の説明やスライド、配付資料などは授業の理解に役立ちましたか。」各授業科目区分の回答内訳

配布資料についても、日本語・日本事情が突出して高いことがわかる。

D. 授業の到達目標の達成度と満足度

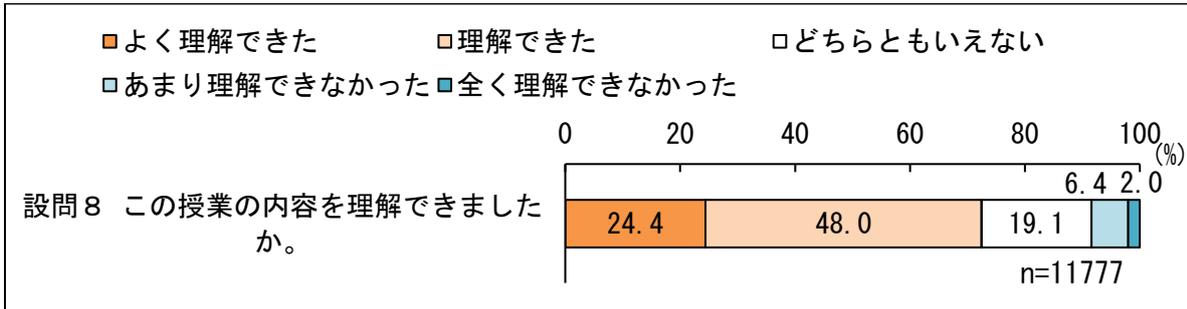


図 1 4 : 設問 8 の回答内訳

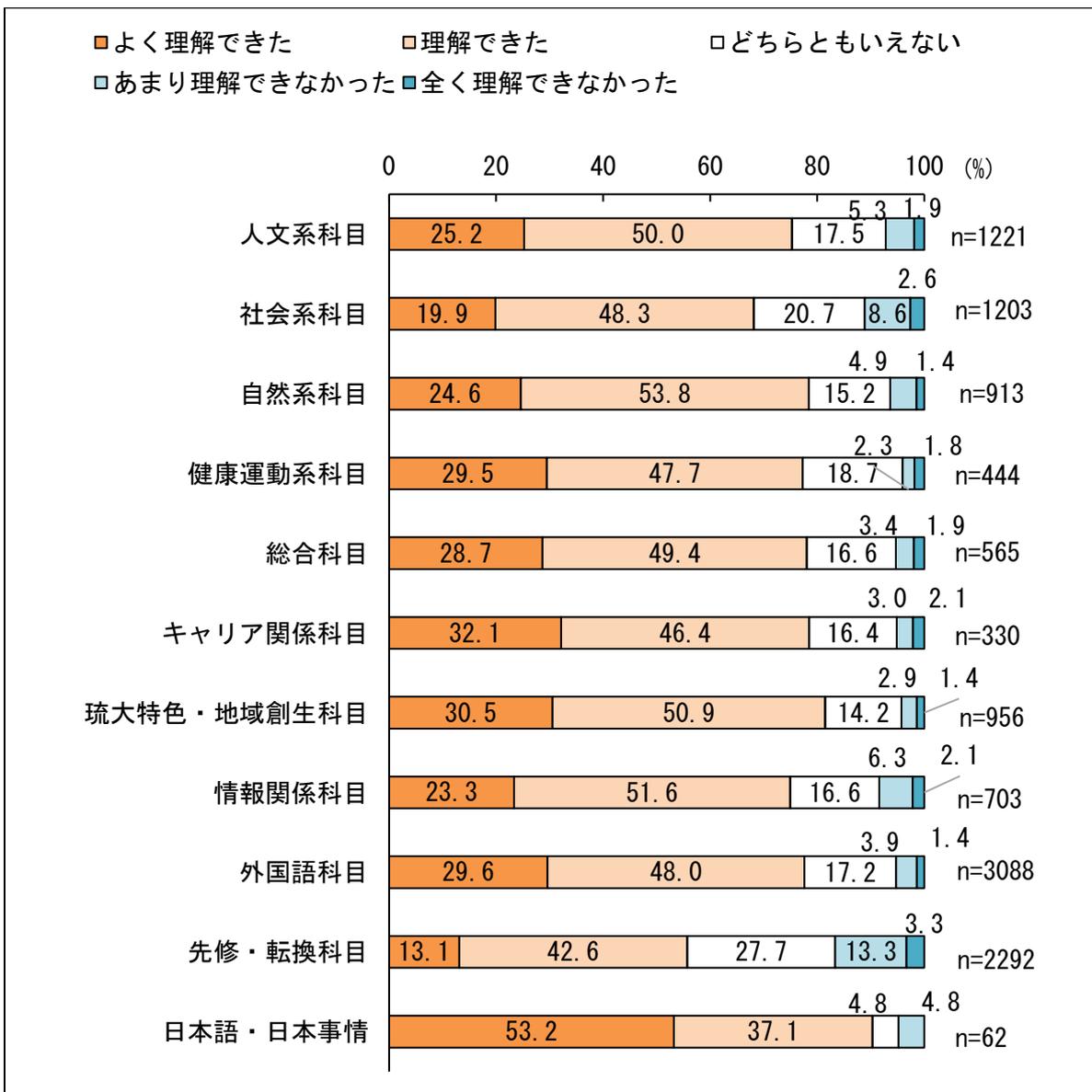


図 1 5 : 設問 8 「この授業の内容を理解できましたか。」各授業科目区分の回答内訳

理解度については、全体的に高いと言えるが、琉大特色・地域創生科目、日本語・日本事情の肯定的回答の率が高いことがわかる。

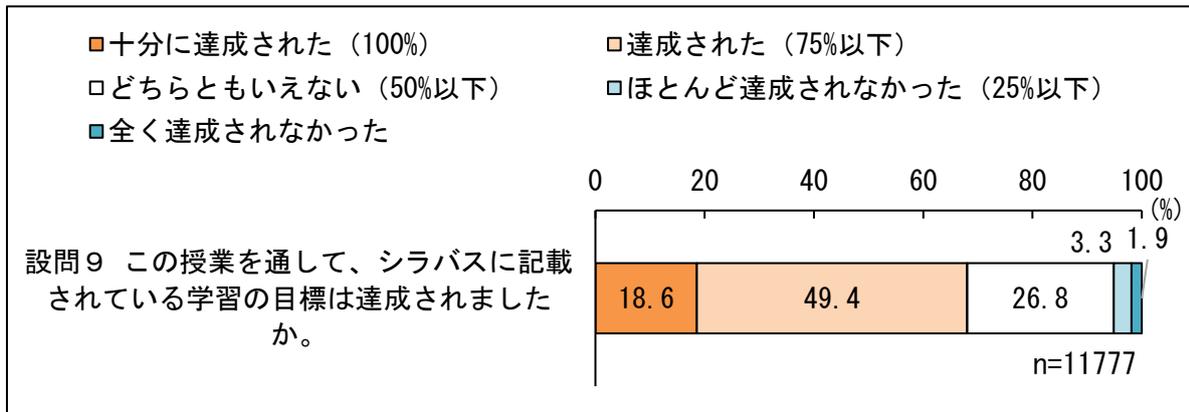


図 16 : 設問 9 の回答内訳

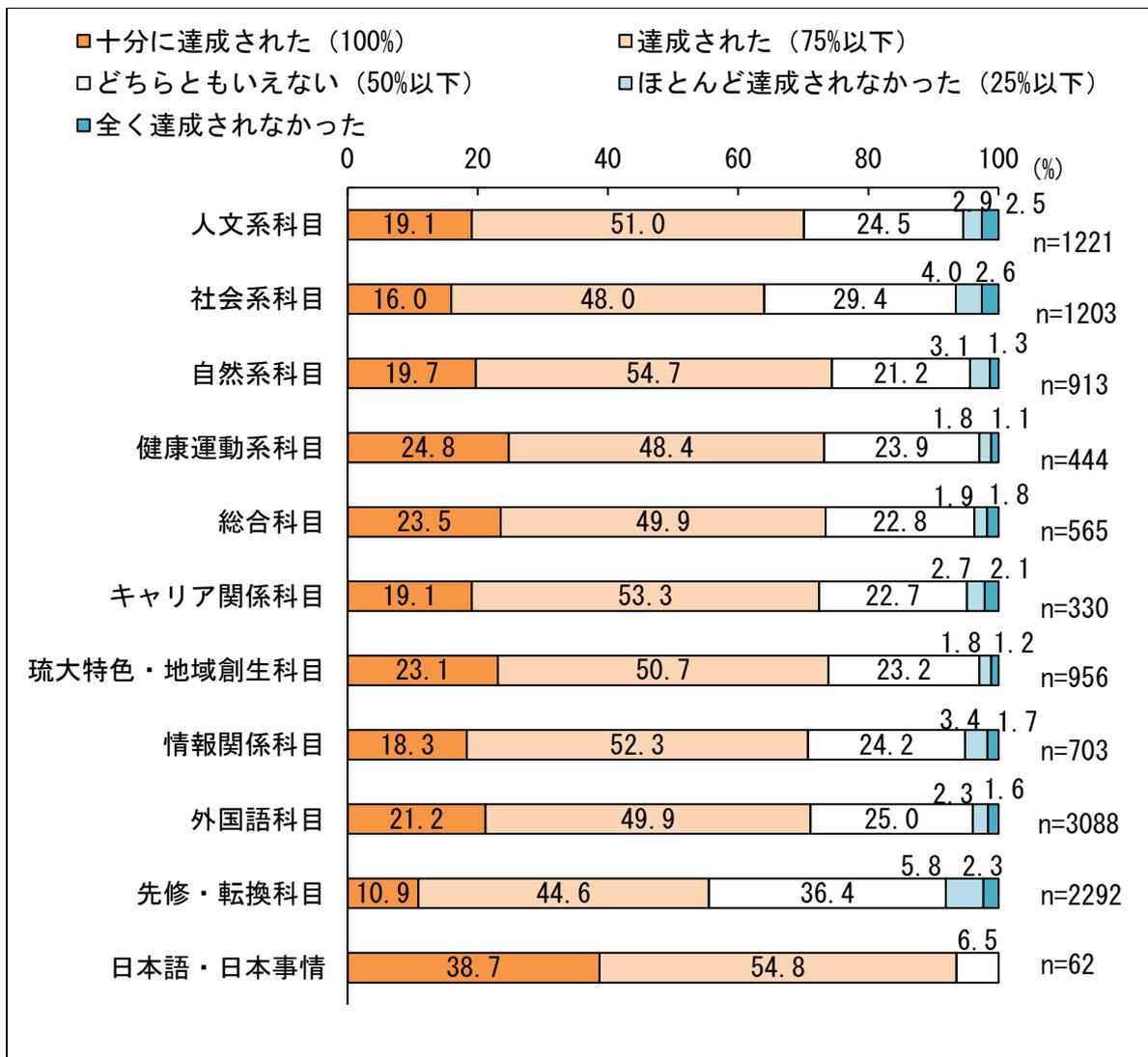


図 17 : 設問 9 「この授業を通して、シラバスに記載されている学習の目標は達成されましたか。」 各授業科目区分の回答内訳

目標の達成度については、全体的に高いと言えるが、日本語・日本事情の肯定的回答の率が

特に高く、先修・転換科目が比較的低いことがわかる。

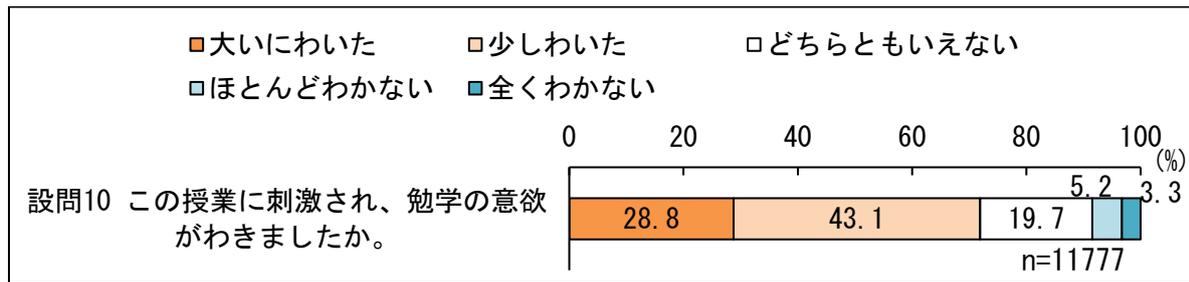


図 18 : 設問10の回答内訳

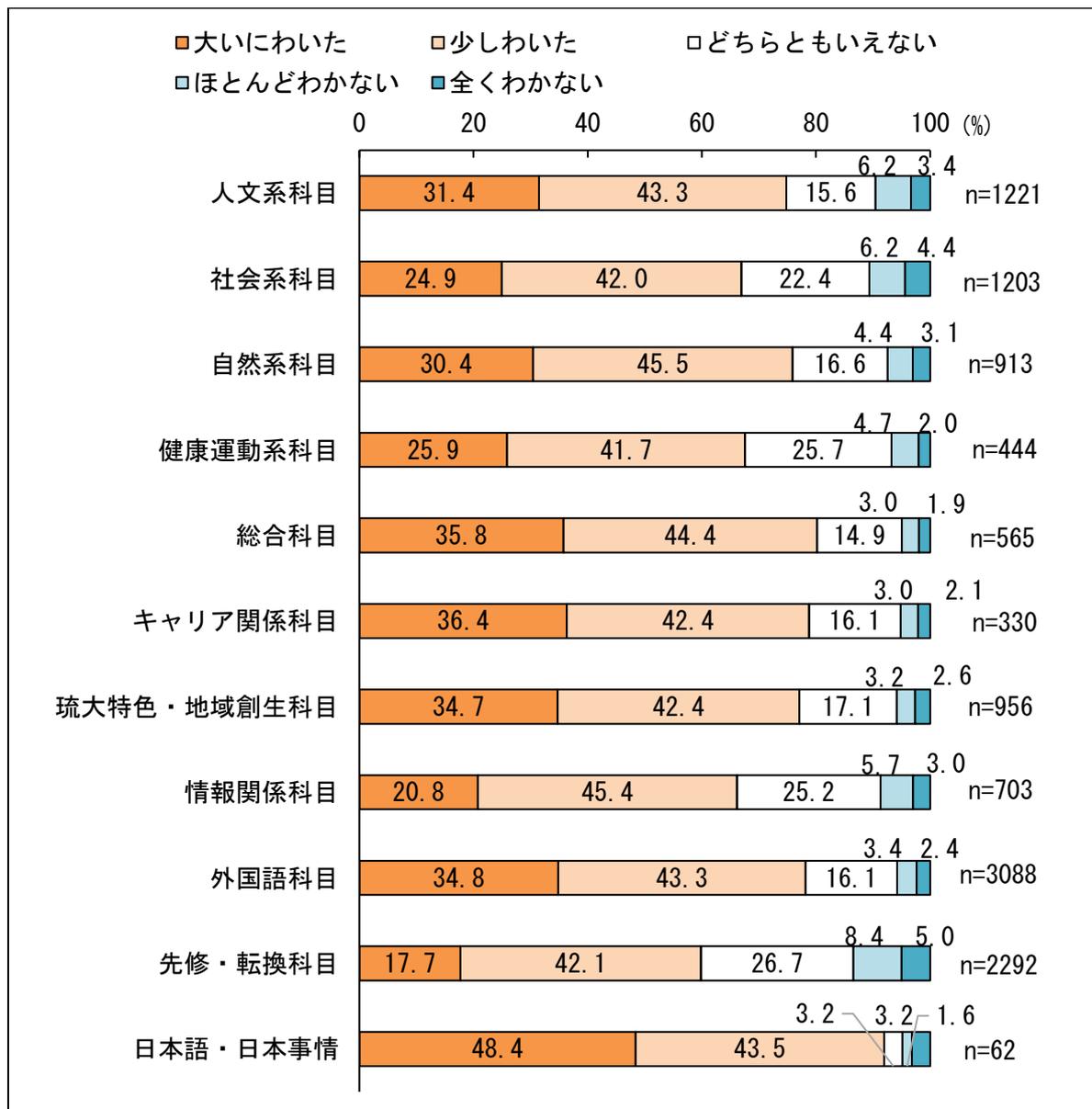


図 19 : 設問10「この授業に刺激され、勉学の意欲がわきましたか。」各授業科目区分の回答内訳

学習意欲についても全体的に高いと言えるが、やはり日本語・日本事情の肯定的回答の率が特に高いことがわかる。

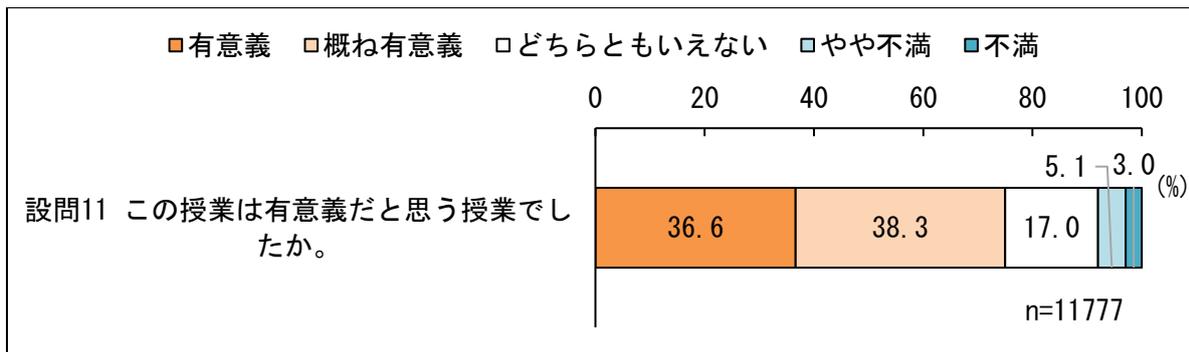


図 2 0 : 設問11の回答内訳

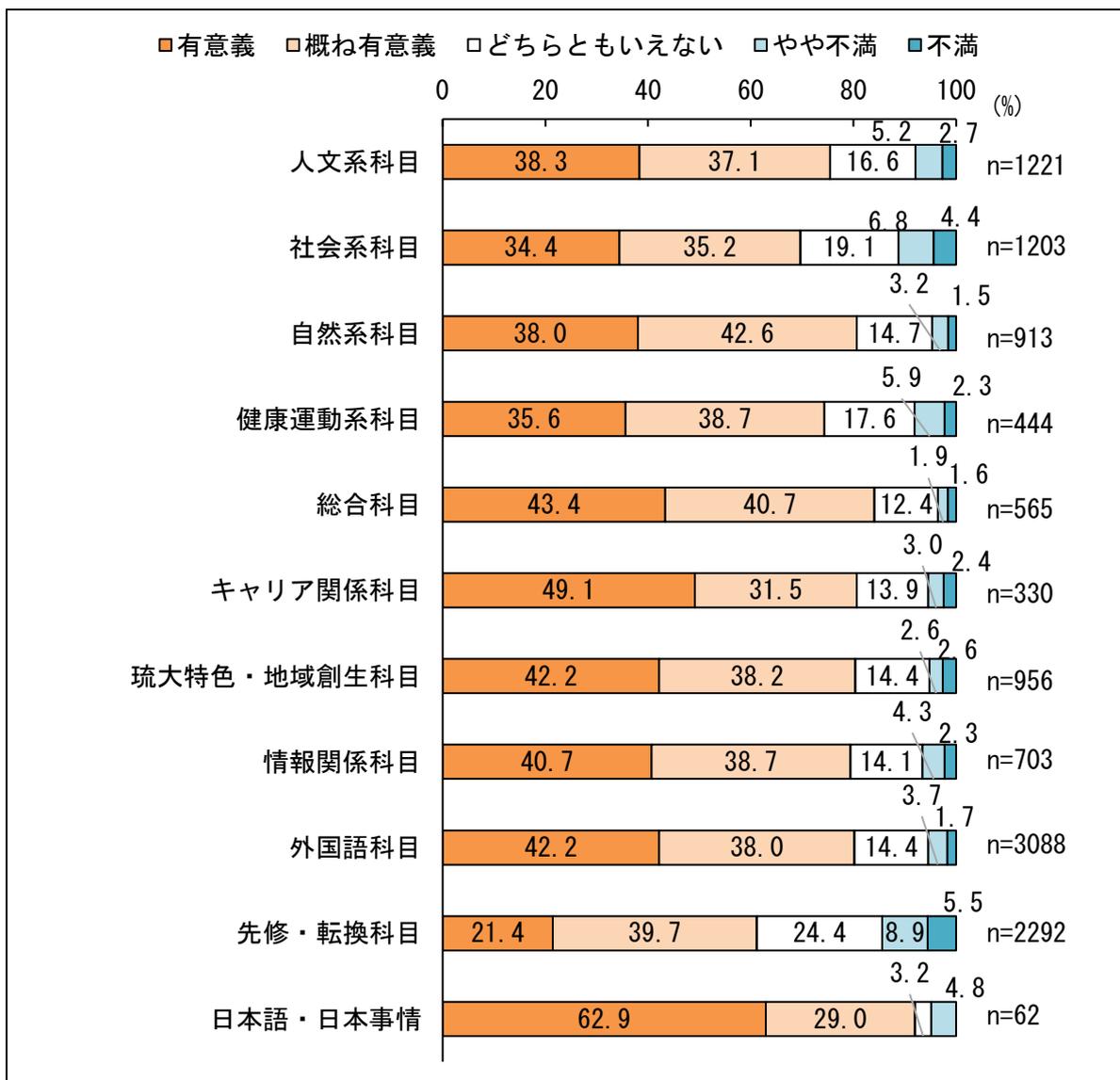


図 2 1 : 設問11「この授業は有意義だと思う授業でしたか。」各授業科目区分の回答内訳

科目の意義についても全体的に高いと言えるが、日本語・日本事情の肯定的回答の率が突出している。

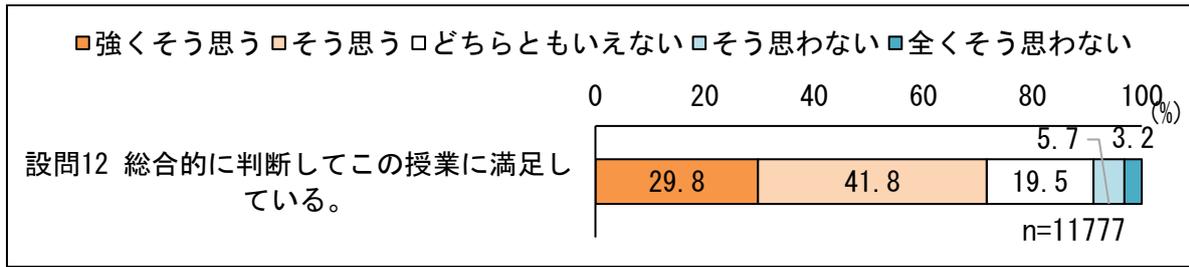


図 2 2 : 設問12の回答内訳

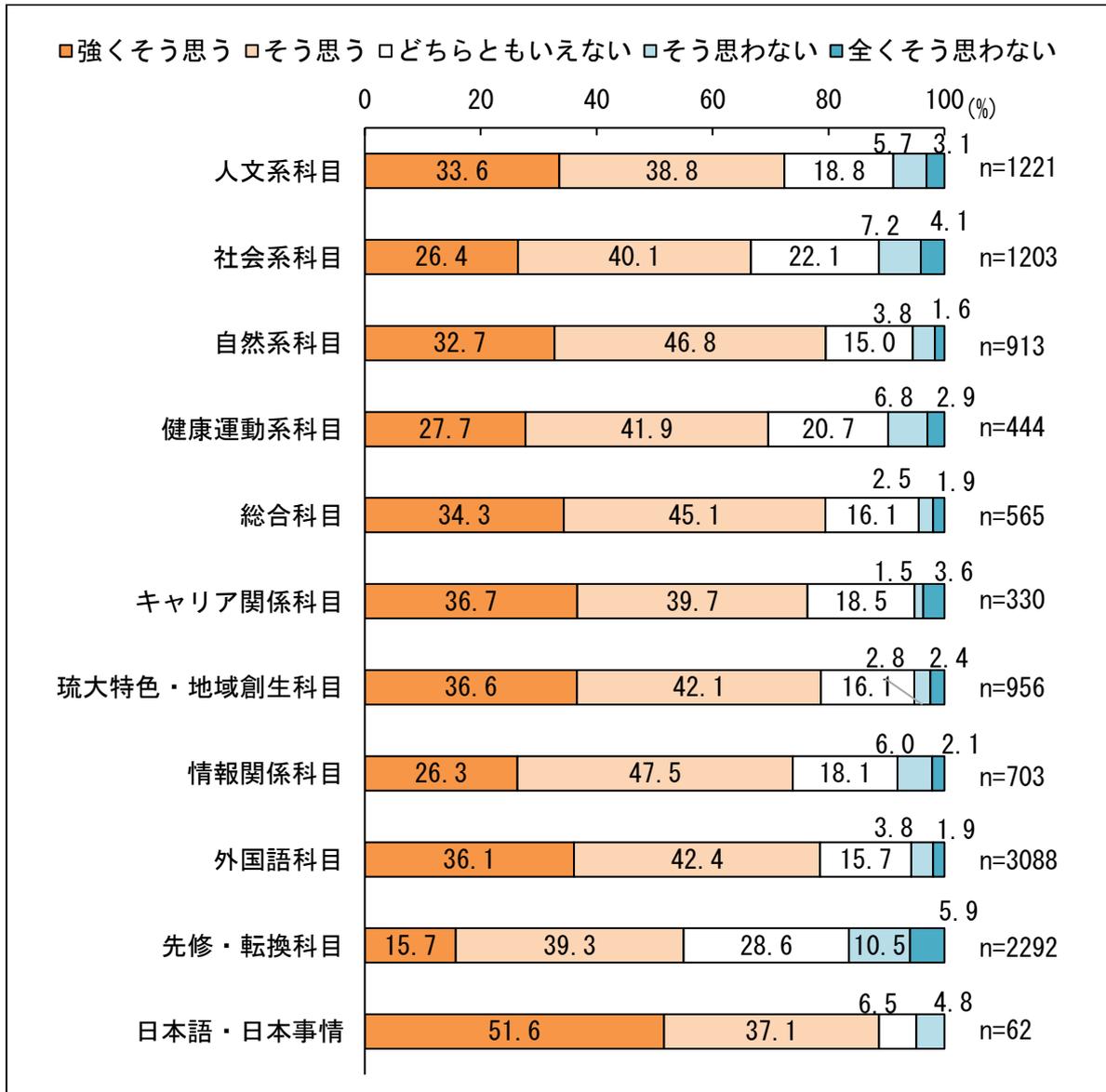


図 2 3 : 設問12「総合的に判断してこの授業に満足している。」各授業科目区分の回答内訳

満足度についても、7割以上が肯定的な回答をしているので、全体的に高いと言えるが、日本語・日本事情の肯定的回答の率が特に高く、先修・転換科目が比較的低いことがわかる。

なお、この質問は前年度も同様の項目が存在したので比較が可能であるが、コロナ禍という状況で満足度は大きく落ち込むことも懸念されたが、それほどの落ち込みはなかった。この件については後の考察のところで詳しく述べる。

3. 遠隔に関する質問について

次に遠隔についての質問である。この項目は、コロナ禍という状況で今年度新たに追加した質問である。この回答パターンをいち早く分析することにより、後期以降の授業に役立てることができると思われる。

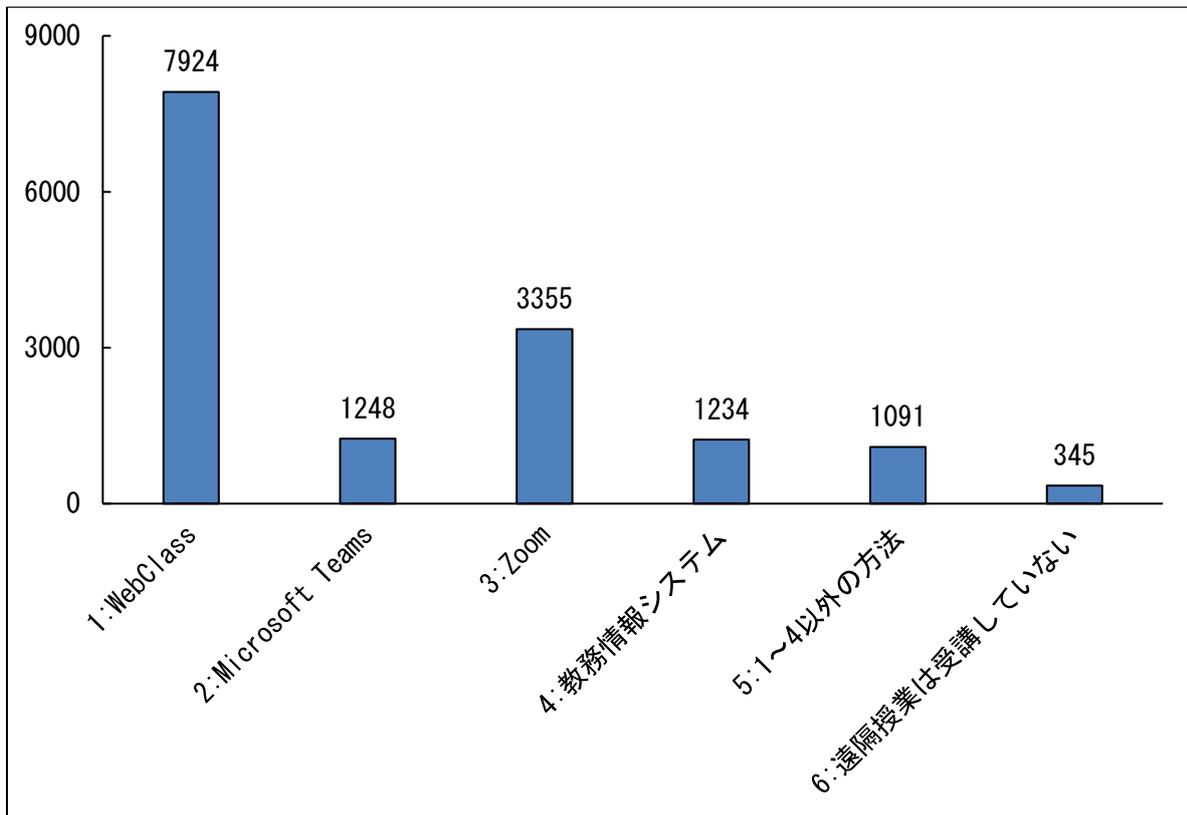


図 2 4 : 設問15「この授業の遠隔授業でどのようなシステムを使用しましたか？」複数回答

まず、遠隔に用いたシステムについての質問である。この項目は複数回答となっているので、集計ものべ人数で示している。

図からわかるように、もっとも多く用いられたシステムはWebClassであり、ついでZoomであった。

表3：設問15における回答5「1～4以外の方法」の一覧

分類	遠隔で使用したシステム一覧	備考
学習管理システム	Google Classroom	
	Moodle	
	Sensei LMS	
動画共有サイト	YouTube	
	Microsoft Stream	
	Flipgrid	
ビデオ会議ツール	Google Meet	
チャット等のコミュニケーションツール	Google Currents	企業・組織向け SNS
	LINE	SNS
	Facebook	SNS
	Slack	チャット
ドキュメントツール	Google Document	ウェブブラウザ内で動く オフィスソフト
	OneNote	デジタルノート アプリケーション
	Office online 版 Word 等	リンク共有者が同一 ファイルに書込等可能
	Evernote	メモ作成アプリ
アンケート・クイズ等ツール	Google フォーム	フォーム作成ツール (アンケートやテスト 機能など)
	Quizlet	オンライン学習ツール (英語)
	socrative	ゲームやクイズ型のオンラ イン学習ツール
語学系授業にて活用していたシステム等	琉球大学アルクネットアカデミー (ネットアカデミーネクスト)	e ラーニングシステム
	TOEIC 特設サイト	公式問題の期間限定無料 公開サイト
	ST Lab	発音練習ソフト
	Oxfordowl	英語の絵本の多読ができる サイト
	Ebook	電子書籍サイト
	vocabulary.com	無料英語学習サイト
	BrainPop	アメリカの教育動画サイト
その他	朝日出版社オンライン授業支援 「文法解説動画」	2020 年度末まで期間限定 公開予定
	Google Drive	オンラインストレージ サービス
	Webmail	
	教員が独自に作成したホームページ	

なお、上の表は参考までに、それ以外にどのようなシステムが使用されたかをまとめたものである。現段階では多種多様な方法が用いられていることがわかる。

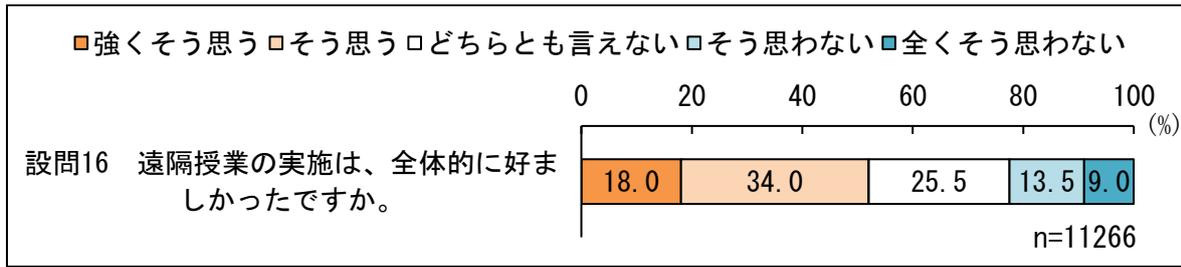


図 2 5 : 設問16の回答内訳

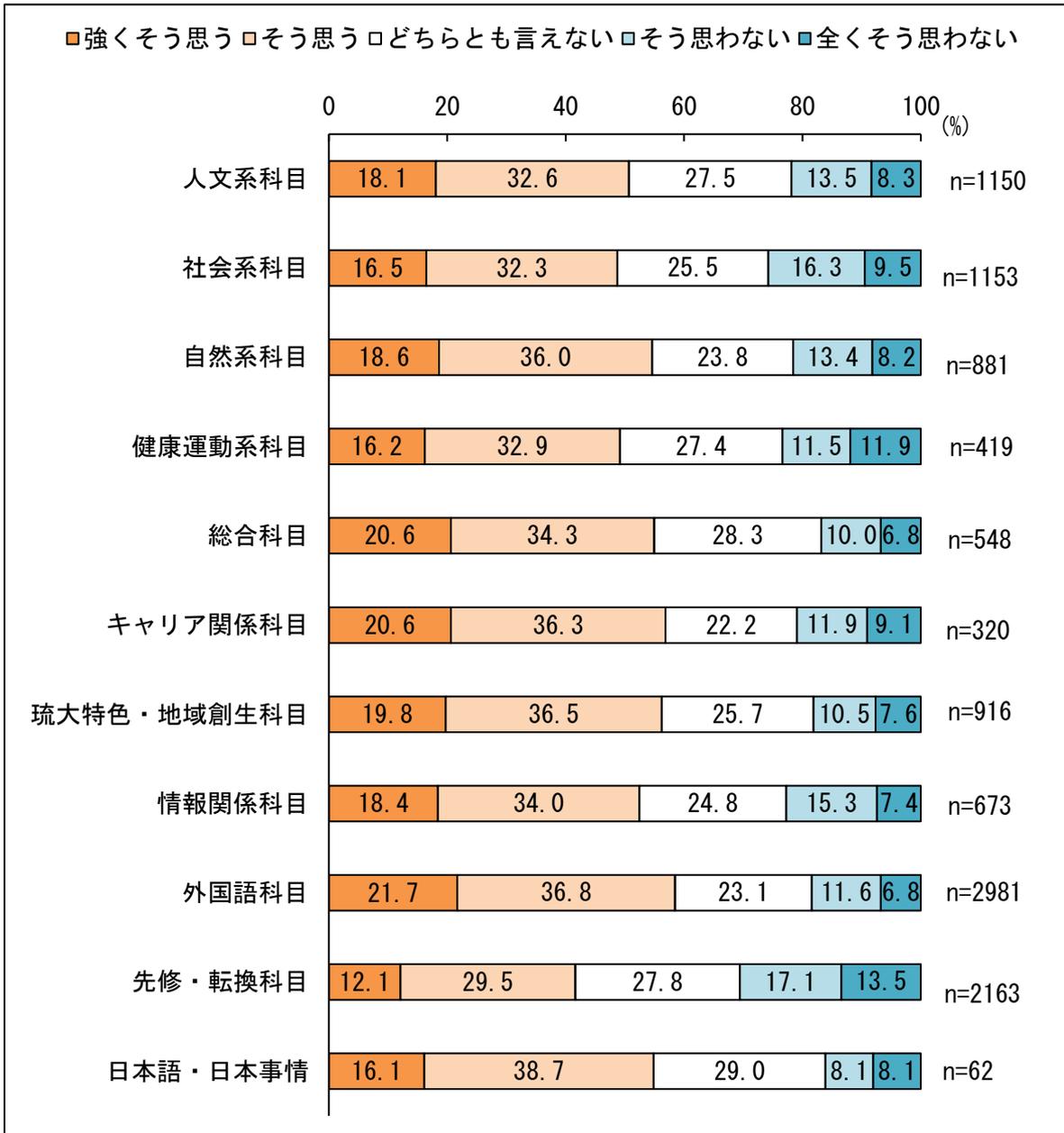


図 2 6 : 設問16「遠隔授業の実施は、全体的に好ましかったですか。」
各授業科目区分の回答内訳

まず、遠隔の実施についてであるが、過半数（18.0+34.0）が好ましかったと評価していることがわかる。ただし、先修・転換科目は肯定的な回答が相対的に低くなっている。

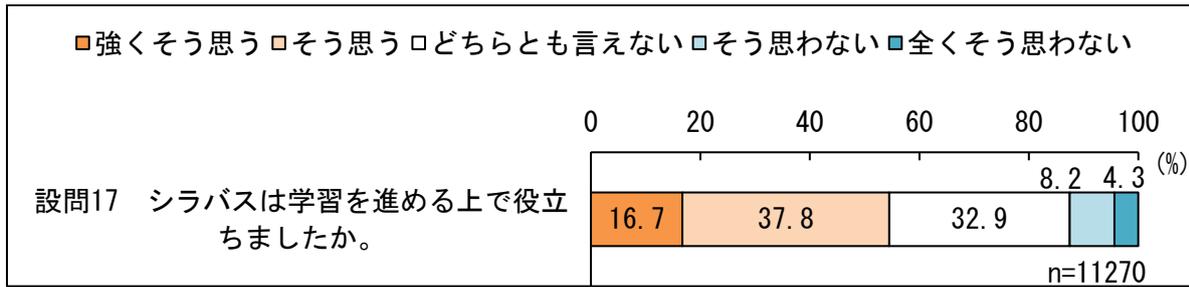


図 2 7 : 設問17の回答内訳

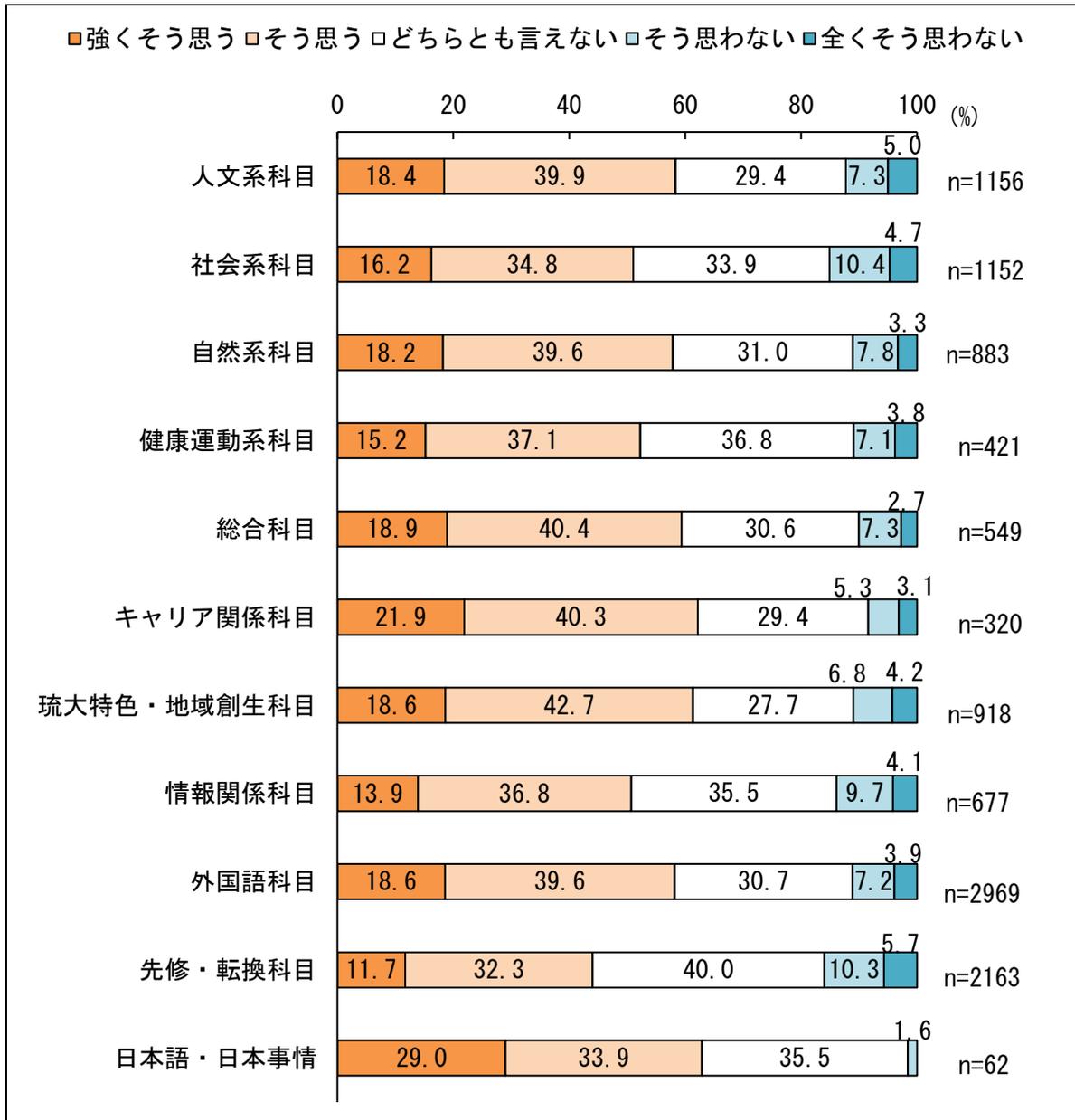


図 2 8 : 設問17「シラバスは学習を進める上で役立ちましたか。」各授業科目区分の回答内訳

次にシラバスについてであるが、おおむね肯定的な回答が多かったが、情報関係科目、先修・転換科目で若干低めになっている。

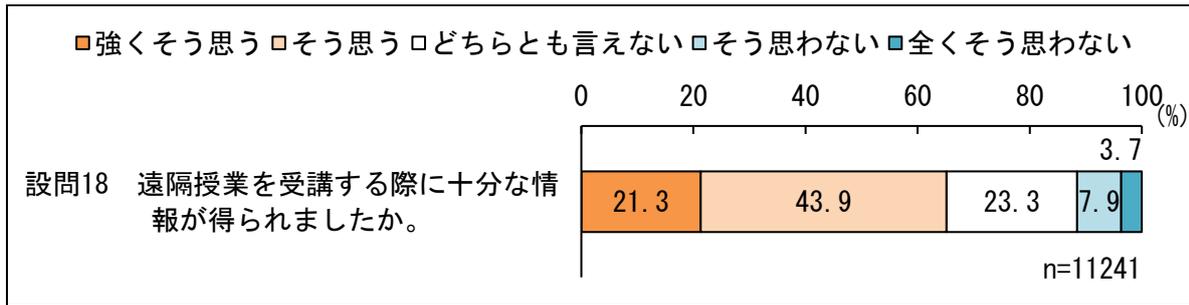


図29：設問18の回答内訳

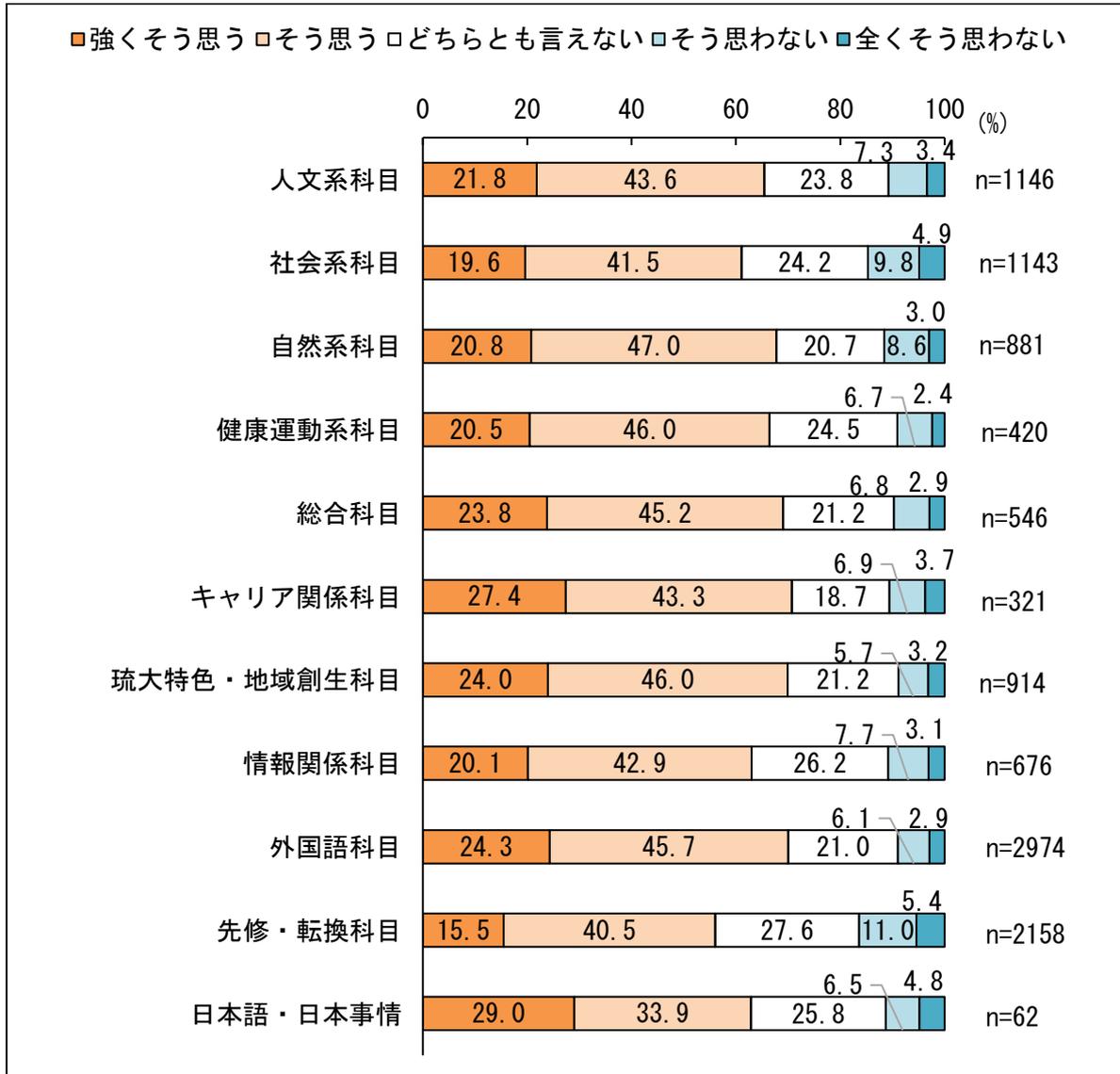


図30：設問18「遠隔授業を受講する際に十分な情報が得られましたか。」各授業科目区分の回答内訳

遠隔についての情報が十分であったかどうかについては、おおむね肯定的な回答が多かった。否定的な回答は10%程度（7.9+3.7）であった。

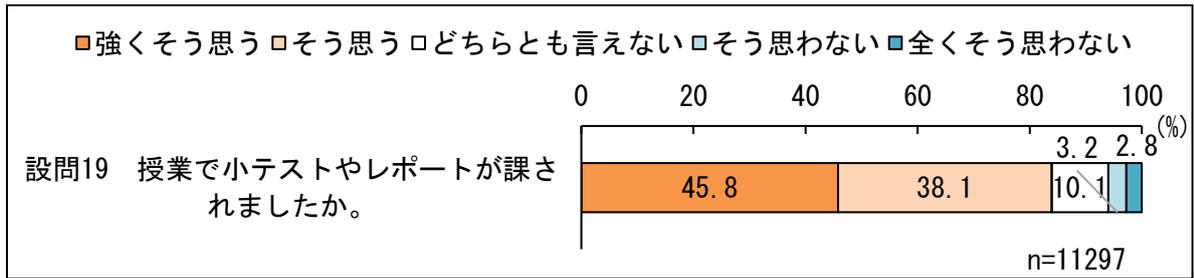


図 3 1 : 設問19の回答内訳

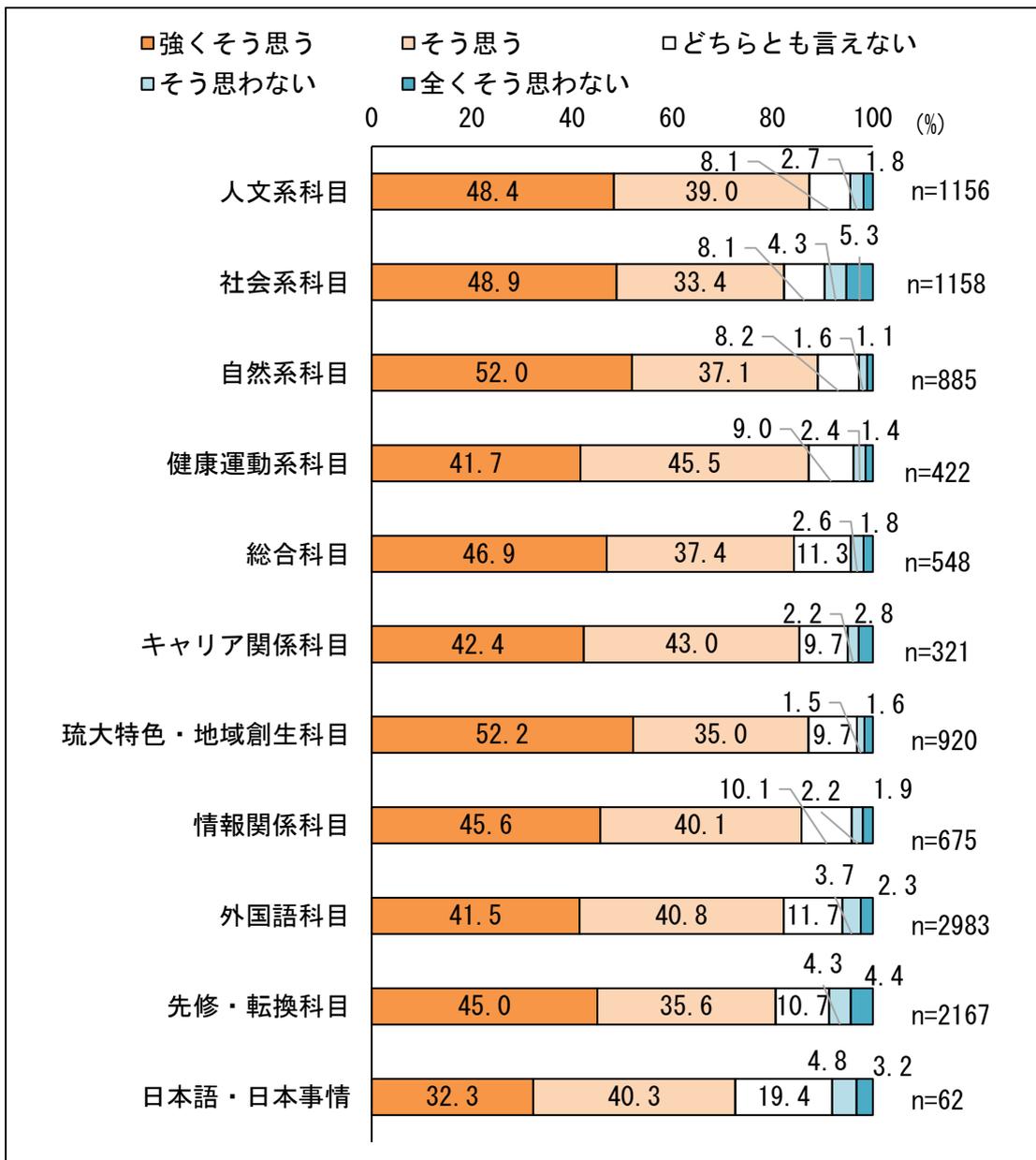


図 3 2 : 設問19「授業で小テストやレポートが課されましたか。」各授業科目区分の回答内訳

小レポート等が課されたかどうかについては、当然のことであろうが、8割を超える学生が「そう思う」（「強くそう思う」45.8%+「そう思う」38.1%）と回答している。

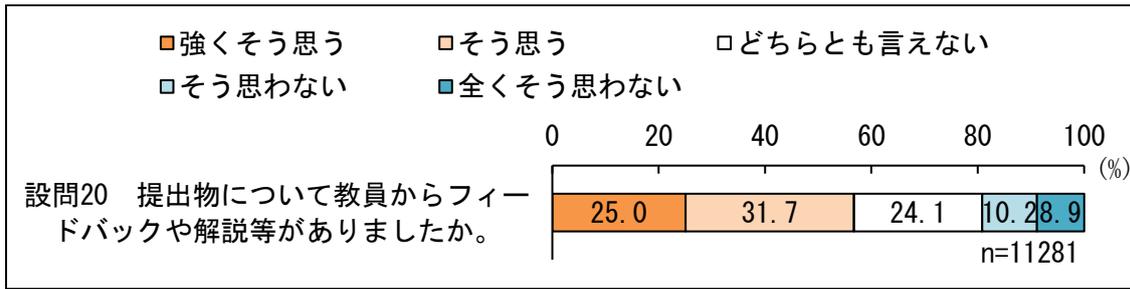


図 3 3 : 設問20の回答内訳

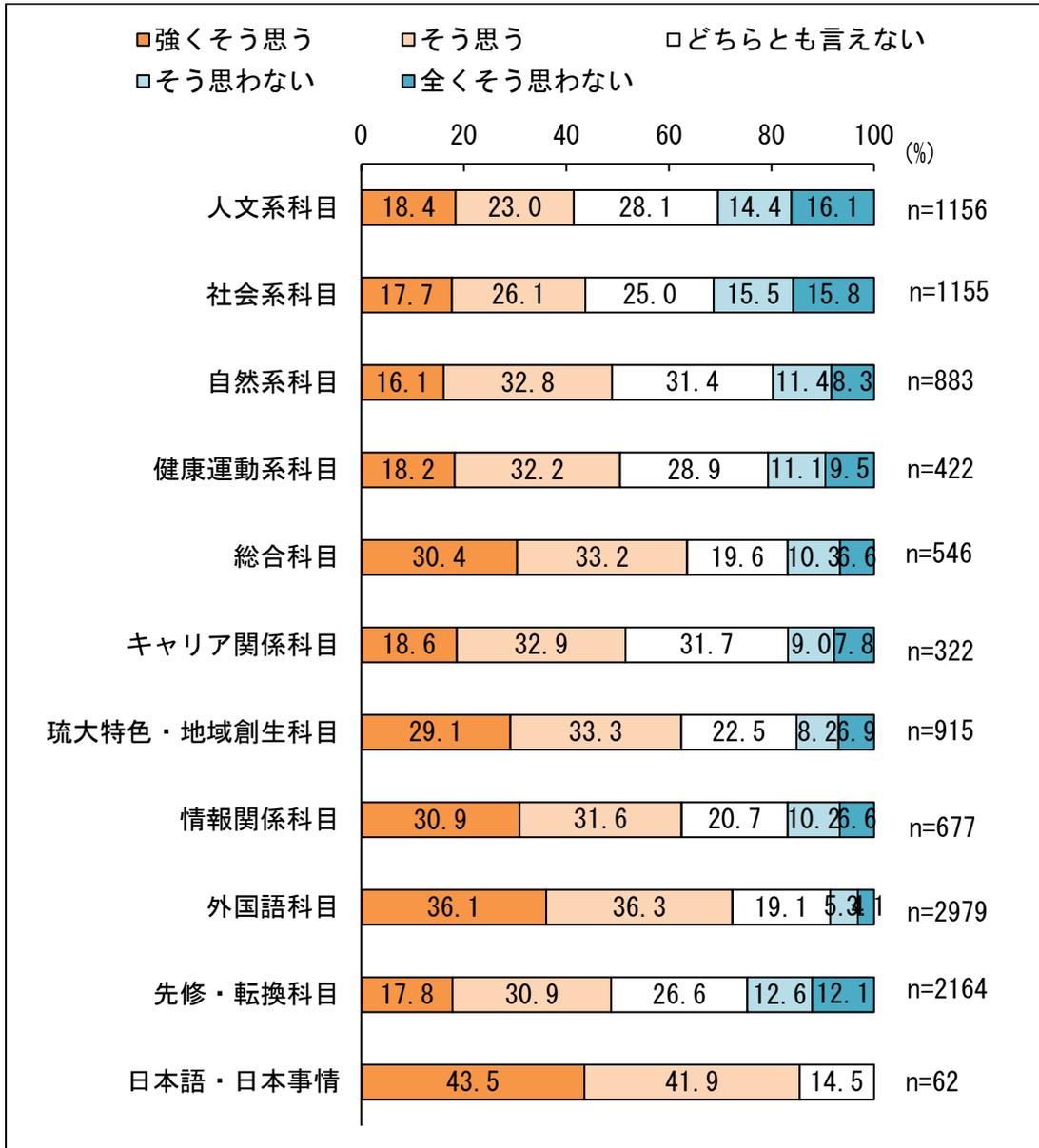


図 3 4 : 設問20「提出物について教員からフィードバックや解説等がありましたか。」各授業科目区分の回答内訳

教員からのフィードバックについてであるが、過半数が「そう思う」（「強く思う」25.0%＋「そう思う」31.7%）と回答しているものの、これは必須であると考えられるので、低いと言わざるを得ないだろう。

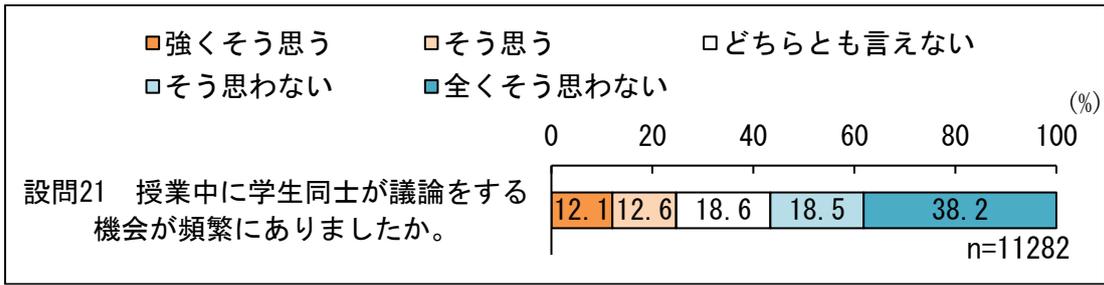


図35：設問21の回答内訳

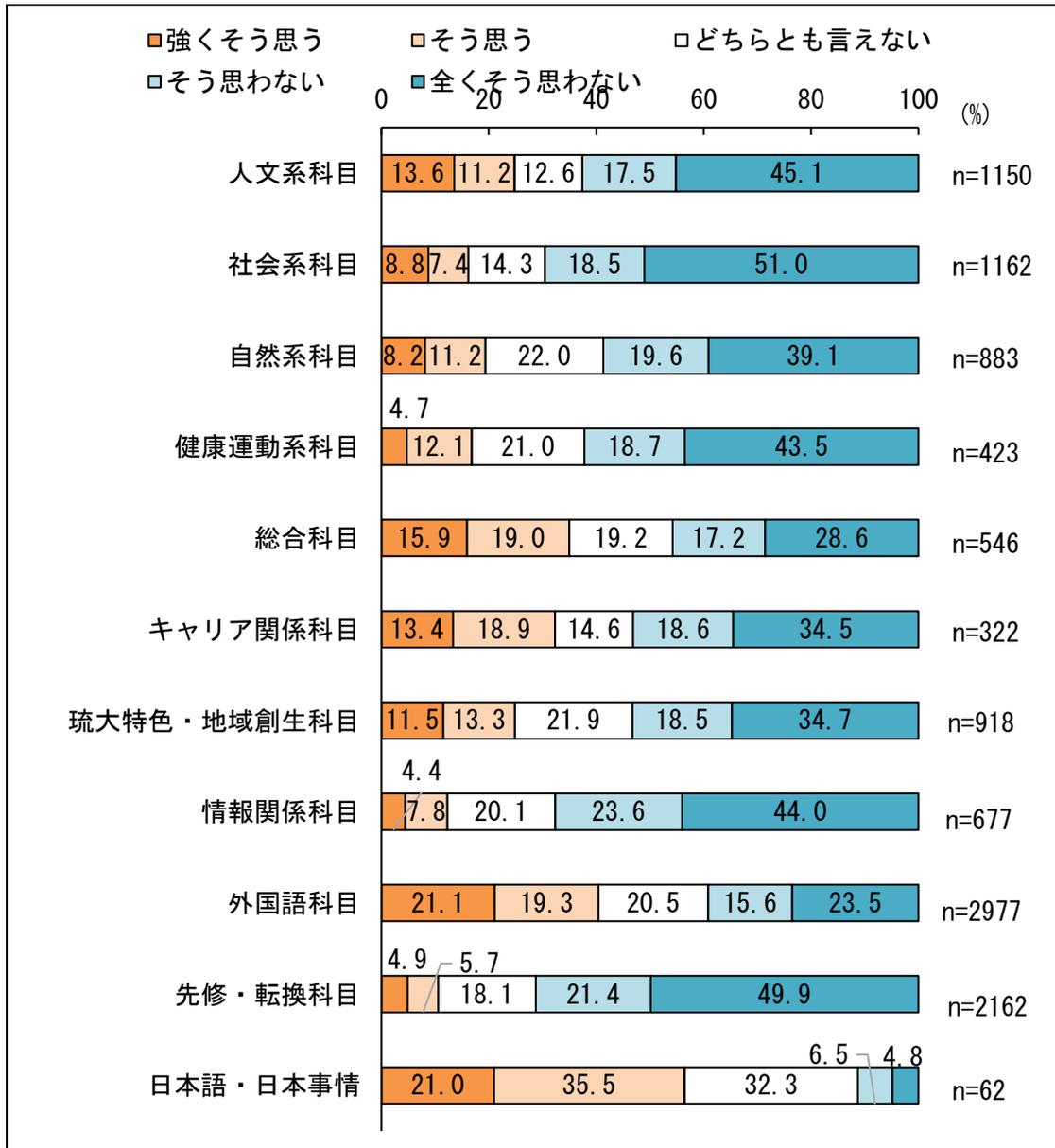


図36：設問21「授業中に学生同士が議論をする機会が頻繁にありましたか。」各授業科目区分の回答内訳

学生同士の議論については、低めとなっている。これは遠隔であるため、ある程度は致し方ないと思われる。その中でも日本語・日本事情については高めとなっている。

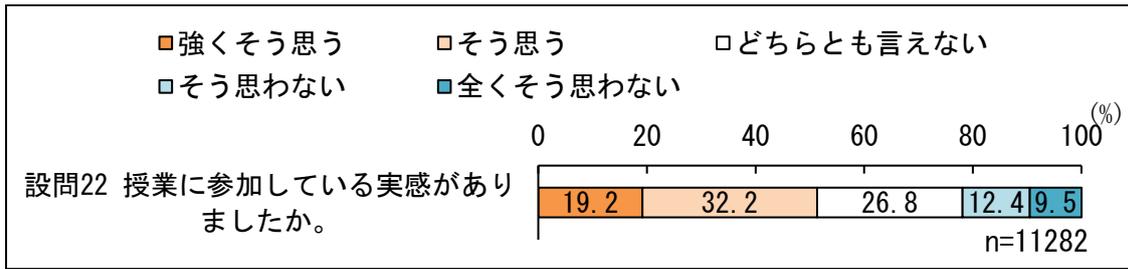


図37：設問22の回答内訳

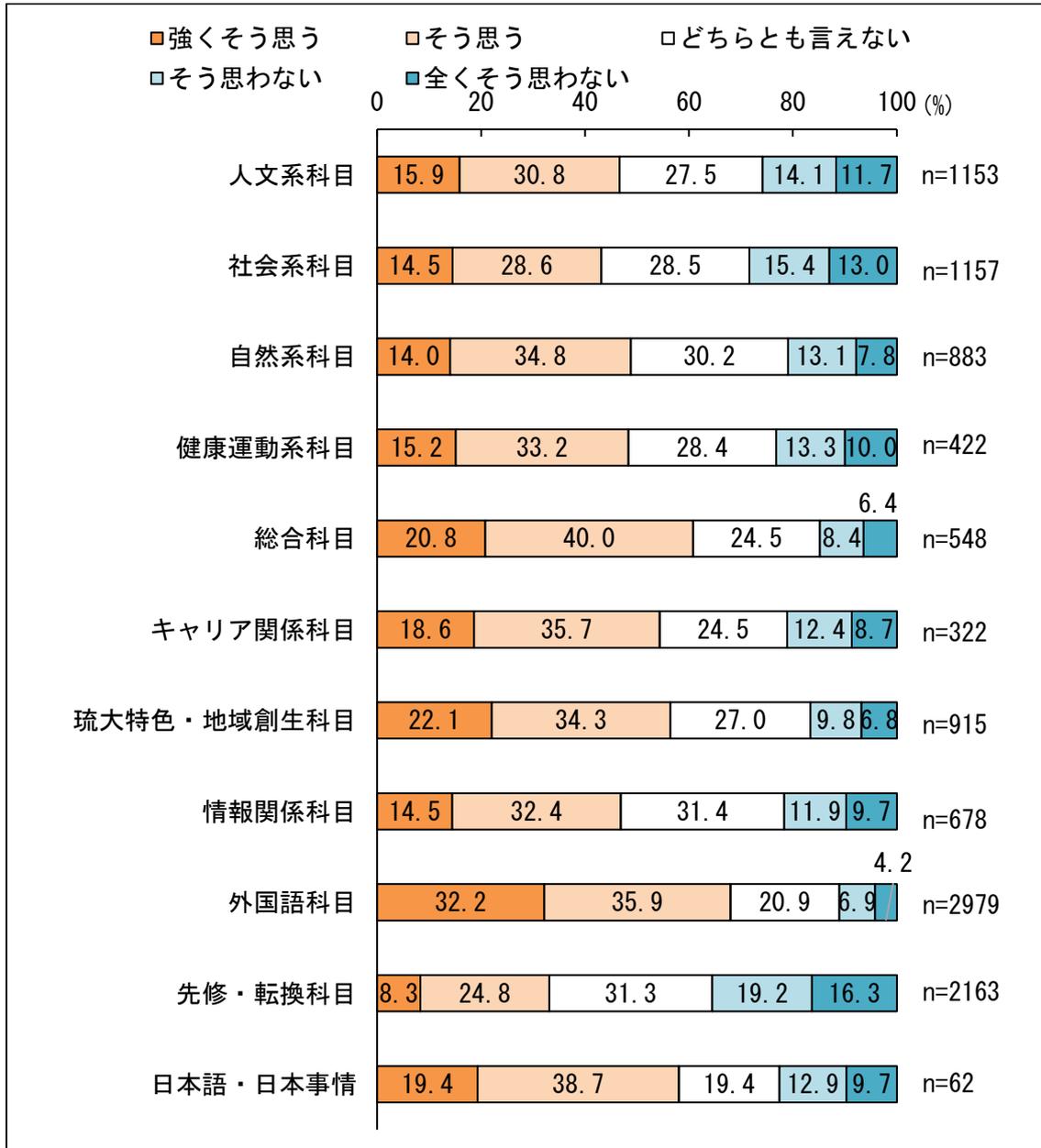


図38：設問22「授業に参加している実感がありましたか。」各授業科目区分の回答内訳

授業の実感についても過半数は超えているものの、肯定的回答はやや低めとなっており、これもコロナ禍の遠隔においては致し方ない部分もあるだろう。

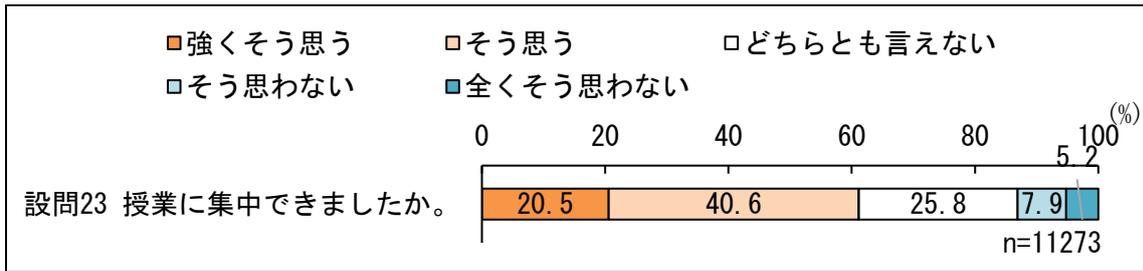


図39：設問23の回答内訳

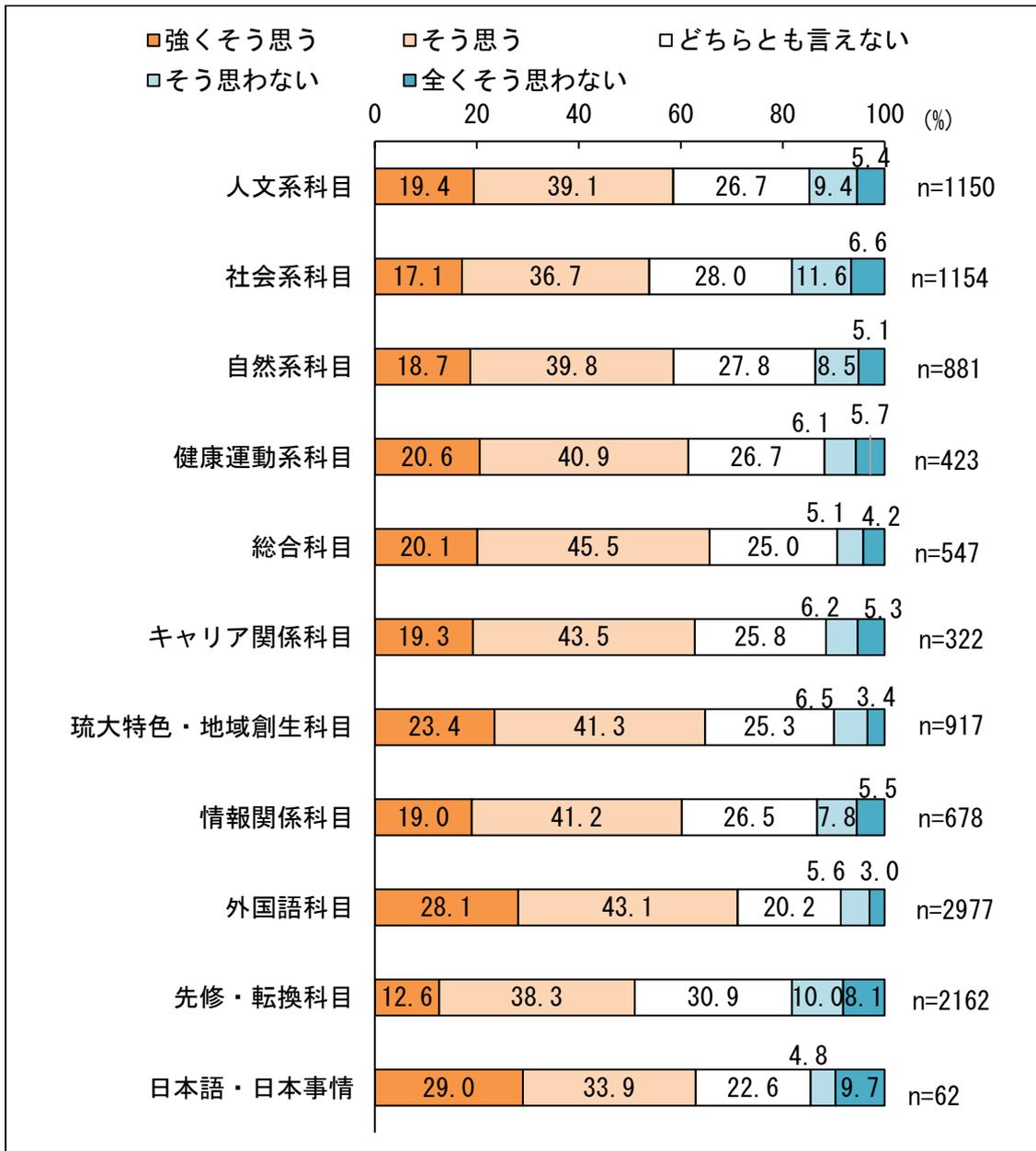


図40：設問23「授業に集中できましたか。」各授業科目区分の回答内訳

授業への集中については、肯定的回答が6割を超えており、否定的回答の13.1%を大きく上回っている。その意味では、遠隔においてもある程度の集中力が保てていることがわかる。

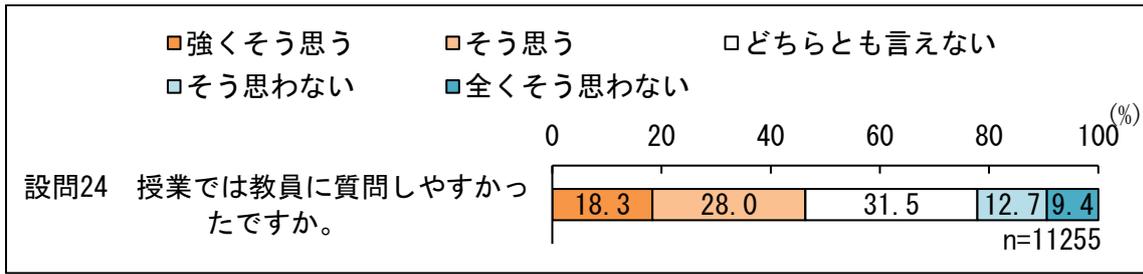


図 4 1 : 設問24の回答内訳

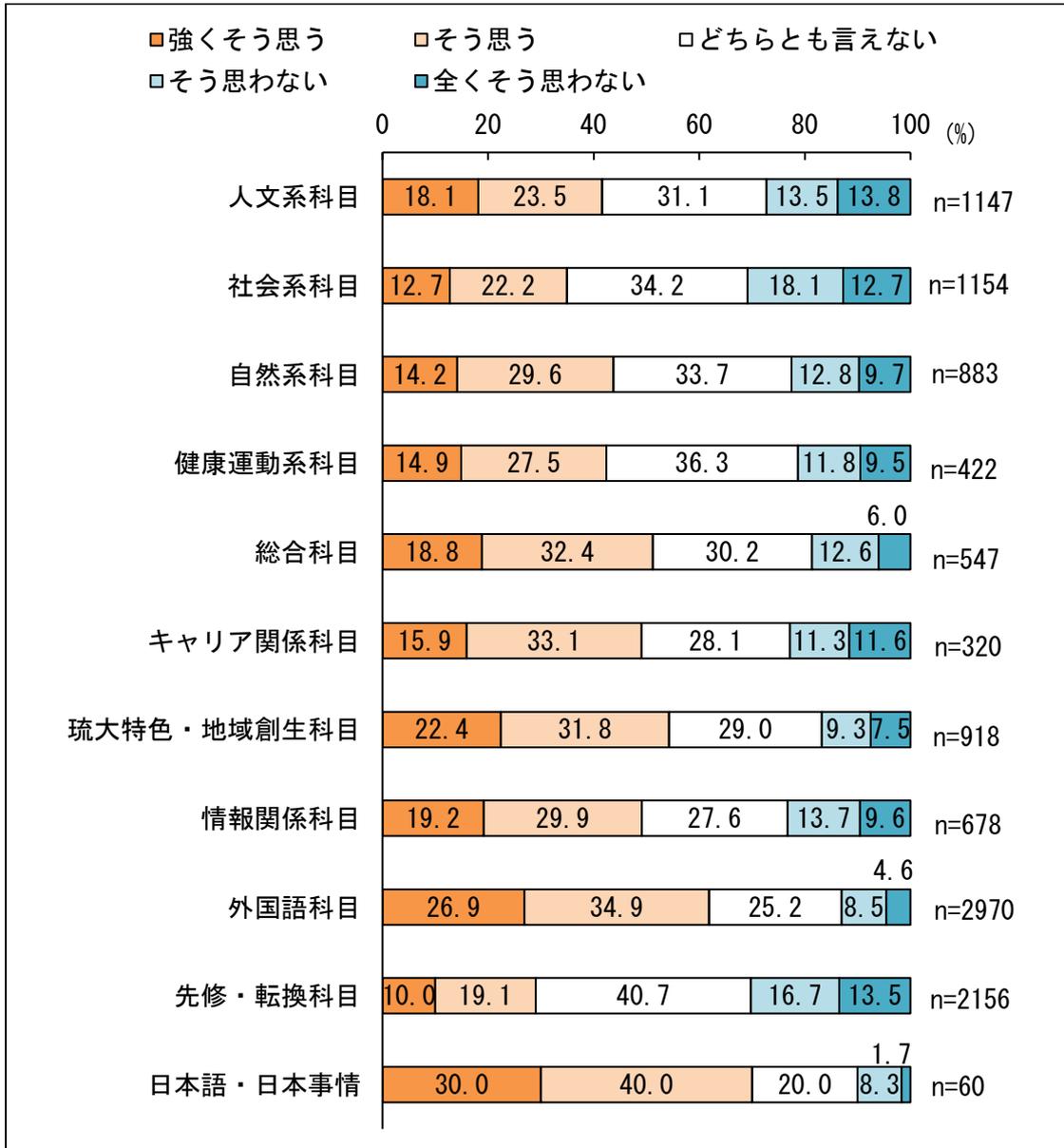


図 4 2 : 設問24「授業では教員に質問しやすかったですか。」各授業科目区分の回答内訳

質問のしやすさについては、肯定的回答が46.3%と否定的回答の22.1%を上回っており、その意味では、学生は比較的質問しやすいと感じているようである。

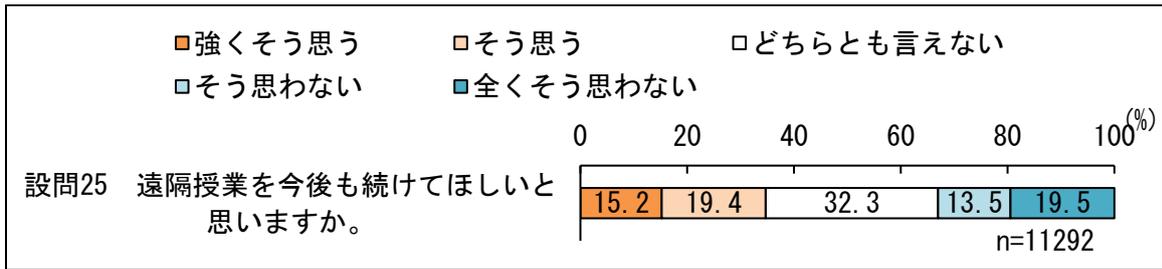


図 4 3 : 設問25の回答内訳

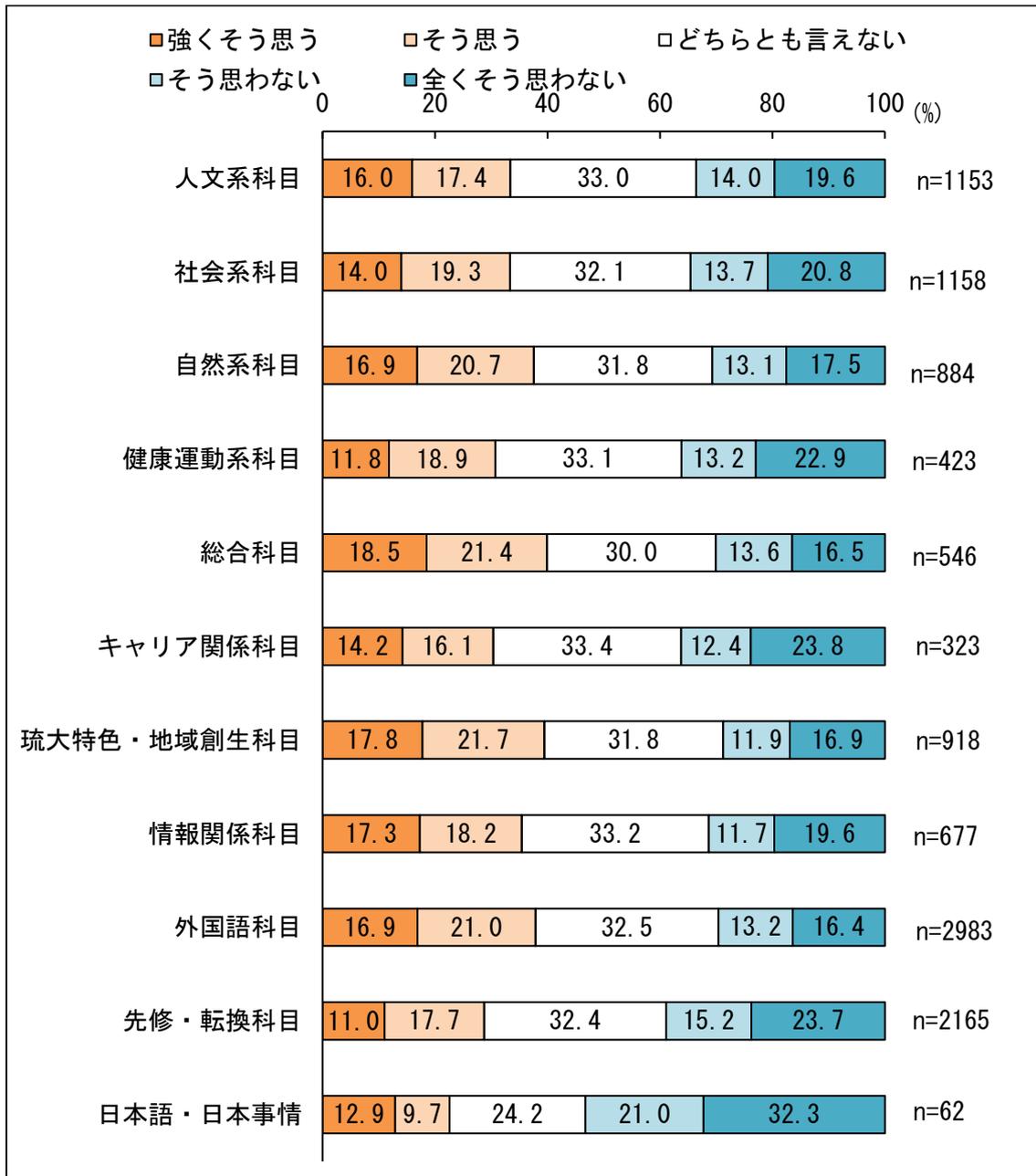


図 4 4 : 設問25「遠隔授業を今後も続けてほしいと思いますか。」各授業科目区分の回答内訳

遠隔の継続希望については、肯定的回答と否定的回答が拮抗している。ただし、日本語・日本事情がかなり低くなっている。この点については後の考察で詳しく述べたい。

Ⅲ. 実験・実習科目に関する質問

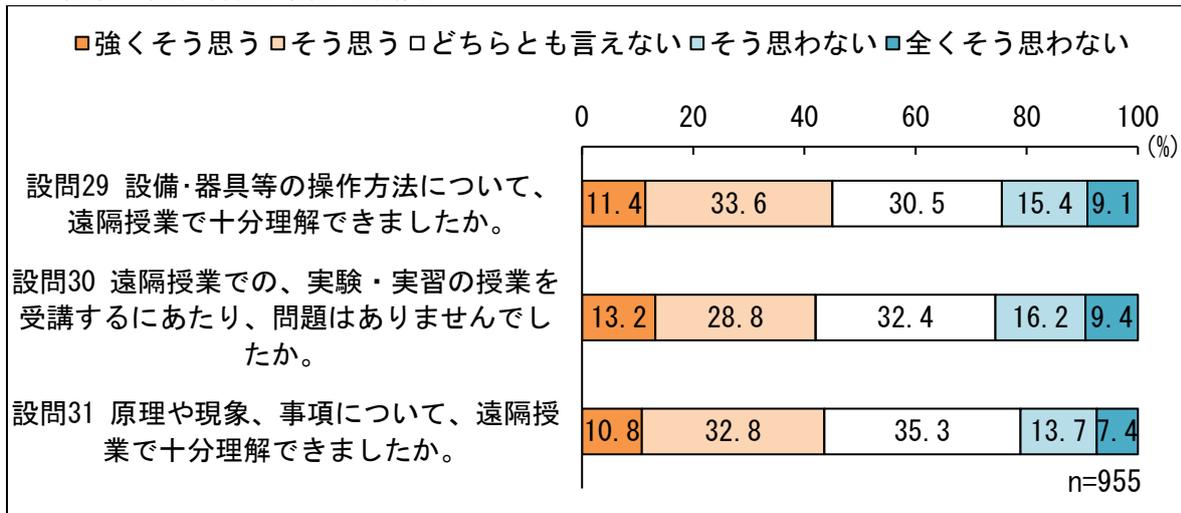


図 4 5 : 設問29~31 回答内訳

実験・実習系科目は、本来、遠隔には向かないものである。そうした中においても、肯定的回答が否定的回答を上回っていることから、当初危惧していた状況とは異なる。学生と教員双方の努力がうかがえる。

4. 考察

以上をふまえ、ポイントをいくつか絞り考察を行いたい。

まず新しい設問により課題も見えてきた。例えば、設問 3 (図 4) の学習時間についてである。この設問では、各授業における学習時間について尋ねているが、2 時間以下が41.0%、4 時間以下では累積で81.6%となっている。設置基準上は、2 単位あたり、事前学習 2 時間、事後学習 2 時間、授業時間と合わせると単純に計算して週あたり 6 時間の学習が必要である。2 時間=90分と計算したとしても、4.5時間は必要となる。つまり現状においては、明らかに学生の学習時間は不足していることになる。一般に、遠隔授業が始まって、課題が増え学生の負担が増えたと言われているが、まだ足りないということになる。

もう一つ気になったのは、設問20 (図33) で教員のフィードバックについて尋ねているが、肯定的回答が25.0+31.7=56.7である程度高いようにも見えるが、学生の提出物についてフィードバックをするのはむしろ当然のこととも言えるので、この数値は低いと見るべきであろう。本センター報の別稿で学生の自由記述の分析を行っているが (別稿：令和 2 年度前学期共通教育等科目における「学生による授業評価」の分析結果)、学生の不満として多かったのは、フィードバックがないことであった。学生からすれば、提出物が受理されたのかどうか、教員からの連絡がないと不安になるのも当然である。この点は後期以降、特に改善していかなければならないことであろう。

このことを補足するため追加分析を行ったのが次の図46である。これは教員のフィードバックがあったかどうかと、学生の授業満足度との関係を示したものである。クロス集計の結果は 1%水準で有意であった。ここからわかるのは、教員からのフィードバックがあるほど満足度が高くなっていることである。例えば、フィードバックがあった授業では肯定的回答が 8 割を超えている (59.3%+32.3%) のに対して、まったくフィードバックがなかった授業について

は肯定的回答率が4割程度（14.8%+28.6%）となっている。このことから、いかにフィードバックが重要であるかがわかる。

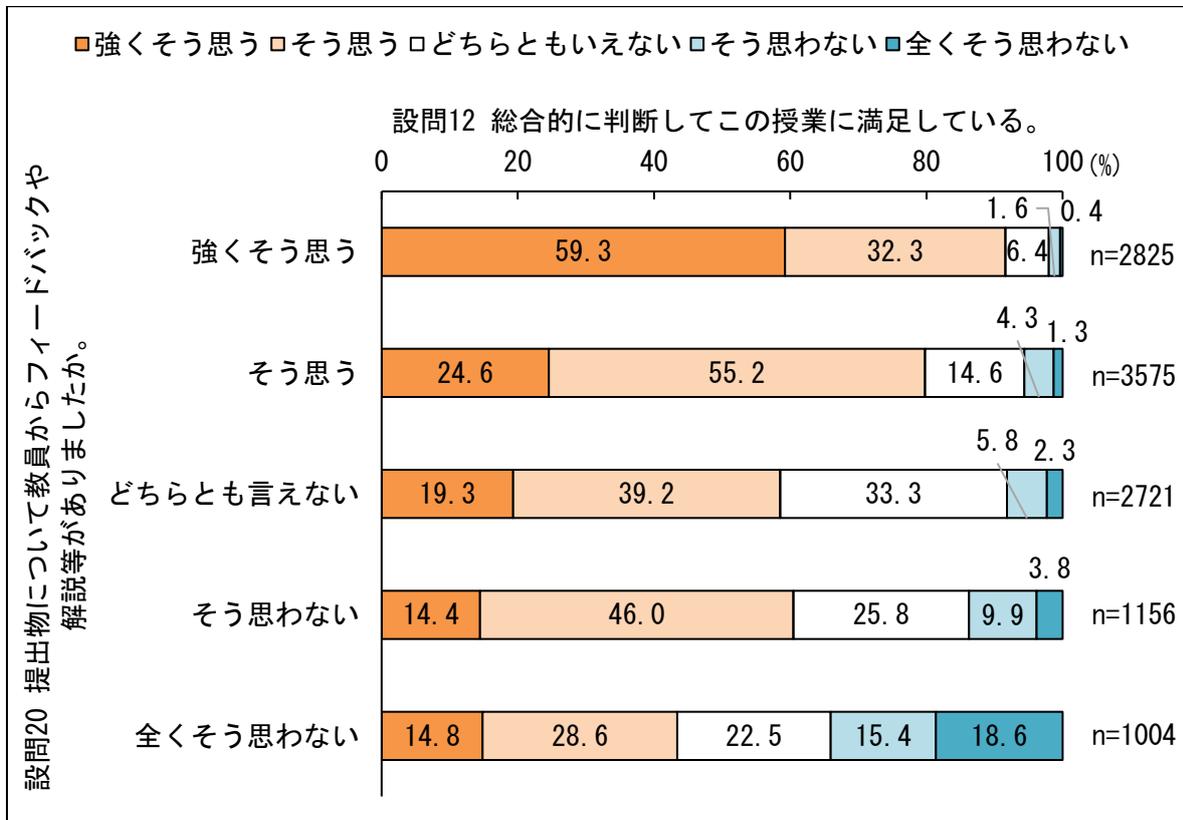


図46：設問12「設問12 総合的に判断してこの授業に満足している。」と設問20「提出物について教員からフィードバックや解説等がありましたか。」クロス集計結果

また、先修・転換科目についての肯定的回答率が全体的に低かった点も気になったところである。ただこれは、遠隔の状況においては致し方ない部分もあると思われる。というのも、この科目区分はもともと実験系の講義も多く、本来遠隔には不向きな側面があると考えられるからである。実験系科目がオンラインに向かないのは、設問29～31（図45）の回答の肯定率が比較的低いことから推察できる。規制が緩和され、対面式の授業が増えるにしたがって徐々に解消される問題とも言えるが、あらためていかなければならない点であろう。

一方、日本語・日本事情については、すべての項目でおおむね肯定的回答率が高かった。これは日本語・日本事情科目が、比較的人数も少なく、個々に応じた行き届いた指導ができていたためと推察できる。もちろん教員の創意工夫や努力もあったことだろう。ただし、そうした科目でも、設問25（図44）で遠隔を続けてほしいかどうかを問う項目では、否定的回答が高かった。やはりこの科目区分も本来は対面式が望ましいと学生が考えているためと考えられる。

その設問25（図43）の遠隔についての継続希望について尋ねている項目であるが、全体で見ると継続を望む肯定的な回答（「強く思う」15.2%+「そう思う」19.4%）が34.6%、継続を望まない否定的な回答（「そう思わない」13.5+「全くそう思わない」19.5）が33.0%と拮抗している。併せて問16で遠隔の実施自体の評価について尋ねているが、過半数（18.0+34.0）

が肯定的な回答をしており、混乱の中、急遽始まった遠隔授業ではあったが、学生と教員双方の努力により、まずは合格点と言える授業が展開できていたのではないかと推察できる。

そのことは満足度の高さからも補完できる。設問12（図22）では授業への満足度について尋ねているが、肯定的な回答が71.6%（「強くそう思う」29.8%+「そう思う」41.8%）にのぼっており、学生からの評価はある程度高いと言える。これはコロナ禍前の昨年度の同時期である2019年前期の同様の設問の肯定的回答率75.9%と比べても大差ない満足度である。2020年度後期以降は、初期の混乱が収まっていくと思われるので、満足度はさらに上昇する可能性もあるだろう。

おわりに

混乱の中始まった遠隔授業であるが、今年度後期のみならず、来年度以降もオンラインが継続する可能性も十分あるかと思われる。よってこの先は、オンライン+対面のいわばハイブリッド型を進めていく必要があり、本学もそうした状況を見据えて準備することが肝要である。本稿がそのための一助となれば幸いである。